

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

研究進捗状況報告書の概要

1 研究プロジェクト

学校法人名	学校法人 関西大学	大学名	関西大学
研究プロジェクト名	国際的な文化財活用方法の総合的研究		
研究観点	研究拠点を形成する研究		

2 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

文化財が世界各国で危機的な状態にあるなか、関西大学に「国際文化財・文化研究センター」を設立し、文化財修復技術者の育成と技術の高度化を、多分野横断型の複合的な技術開発、国際的な人材育成、社会人教育に組み合わせた「総合文化財学」を確立する。このため、(1)文化財の修復の施工を実施する技術者の育成と技術向上、(2)日本の理工系科学の技術を応用する文化財修復技術の向上、(3)文化的な予見に基づく修復を避けるための異文化の研究(エジプト研究、ヨーロッパの異文化研究)の推進と文化財修復への応用、(4)文化財保全技術と知見の普及活動を展開する。初年度には、総合文化財学の基礎構築のため、修復専門技術者養成やエジプト学の基礎講座を開設し、エジプトで文化財を調査する。

2年度には、技術者養成やエジプト学講座を進化させ、エジプトでの調査を継続する。3年度には、総合文化財学を成立させるため、文化財科学、理工系科学、異文化研究、エジプト学を統合し、国際的に活躍し、文化財を総合的に扱う人材育成体制を構築する。修復技術者養成とエジプト学講座を高度化し、エジプトなどで調査を実施する。4～5年度には、文化財修復技術者を養成し、技術を高度化させ、同時に社会に普及させるとともに、成果を国際シンポジウムなどで発信し、国際的なネットワークを構築して、研究拠点を形成する。

3 研究プロジェクトの進捗及び成果の概要

エジプト革命(2011年1月)以降の政情不安の影響を受けているが、申請時の研究計画を良好に達成している。エジプトでの現地調査に加えて、招聘者との合同研究を強化し、研究基盤を強化した。サッカラを中心に、遺跡管理官と修復技術者、村民、行政官、観光省職員を招聘し、サッカラなどの遺跡管理方法や修復活動とその技術、日本の明日香村や京都の観光地の活用法とエジプトへの応用方法の研究を行った。考古大臣を招聘し、考古省と当センターの関係強化を話し合った。また、カイロ大学考古学部のエジプト学者と修復科学者の招聘では、エジプト学と文化財修復技術のセミナーを開催し、技術の総合的な導入とその公開を図った。センターのすべてのグループが関わったこれらの活動によって、日本国内で現地調査なみの研究を行うことができる体制を構築した。また、カイロ大学考古学部博物館での調査に代わりバーレーンで調査を行い、2016年2月には文化財管理当局と研究協定を締結した。

「エジプト学・エジプト社会グループ」は、エジプト語講座を開催して研究成果を還元し、サッカラ村でのアンケート実施によって村落構造を解明しつつある。「文化財修復グループ」は、ポーランド人やエジプト人研究者とともに国内で研究を行い、さらにセンターの技術をペルーのマチュピチュ遺跡に応用するなど多国間で活用している。また、「文化財保存修復セミナー」を開催し、多くの受講生を集めた。「科学技術グループ」はエジプトでの地盤強化の実験や各種の分析を継続し、ポーランド人とエジプト人研究者と国内で研究している。「国際文化グループ」は、欧米での異文化理解と文化財への応用を図っており、今日的な課題の根源的な構造を明らかにしつつある。

2016年2月に開催した国際シンポジウム「世界の文化財保護—地域に根ざした活動と課題—」では中国、ポーランド、バーレーン、シリア、エジプト、日本の専門家とともに、各国の先端研究を結び付けることができた。サッカラの若手実務者の研修を実施し、彼らの国際的舞台上での研究発表を促進しており、エジプトからセンターの紀要への投稿がさらに増える見込みである。グループを越えて各種ワークショップを開催し、ニュースレターや紀要を発行、HPなどで成果を公開している。PDや大学院生の育成も行っている。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

**平成 25 年度選定「私立大学戦略的研究基盤形成支援事業」
研究進捗状況報告書**

1 学校法人名 学校法人 関西大学 2 大学名 関西大学

3 研究組織名 国際文化財・文化研究センター

4 プロジェクト所在地 大阪府吹田市山手町 3-3-35

5 研究プロジェクト名 国際的な文化財活用方法の総合的研究

6 研究観点 研究拠点を形成する研究

7 研究代表者

研究代表者名	所属部局名	職名
吹田 浩	国際文化財・文化研究センター 文学研究科	センター長 教授

8 プロジェクト参加研究者数 23 名

9 該当審査区分 理工・情報 生物・医歯 **人文・社会**

10 研究プロジェクトに参加する主な研究者

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
吹田 浩	文学研究科・教授	古代エジプト文化の研究	文化財修復のための復元、エジプト学の国際化
森 貴史	文学研究科・教授	欧米・日本における文化財認識の研究	文化財復元への視点、異文化理解
中澤 務	文学研究科・教授	古典古代社会の文化財の欧米における認識の研究	文化財復元への視点、異文化理解
浜本 隆志	関西大学・名誉教授 (前 関西大学 文学研究科・教授)	欧米・日本における文化財認識の研究	近代文化財のあり方・展示方法
柏木 治	文学研究科・教授	欧米・日本における文化財認識の研究	近代文化財のあり方・展示方法
伊藤 淳志	理工学研究科・教授	石造文化財の建築的研究	遺跡の長期的安全確保
西形 達明	関西大学・名誉教授 (前 関西大学 理工学研究科・教授)	石造文化財の地盤工学的研究	遺跡の長期的安全確保
土戸 哲明	関西大学・名誉教授 (前 関西大学 理工学研究科・教授)	文化財汚染微生物の制御技術の開発	文化財の長期保全
荒川 隆一	理工学研究科・教授	文化財構成素材の化学的分析	古代技術の解明

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

研究者名	所属・職名	プロジェクトでの研究課題	プロジェクトでの役割
川崎 英也	理工学研究科・教授 (前 准教授)	文化財構成素材の化学的 分析	古代技術の解明
岡 絵理子	理工学研究科・教授 (前 准教授)	遺跡と地域コミュニティーの 関係の研究	遺跡の活用、異文化との 共存
安室 喜弘	理工学研究科・教授 (前 准教授)	遺跡の 3 次元資料の活用 の研究	文化財データの活用
鶴田 浩章	理工学研究科・教授 (前 准教授)	劣化文化財における物性の 研究	文化財建造物の劣化対策
アフメド・サイエド・ アフメド・シュエイブ	(共同研究機関等) エジプト・カイロ大 学・考古学部・教授	エジプト文化財(壁画)の 修復技術の研究	修復技法の解明、古代技 術の解明
アーデル・イブラヒ ム・モハメド・アカリ シュ	エジプト・国立研究セ ンター・地球科学部 門・教授	エジプト文化財の技術の 研究	古代文化資源と技術の解 明
サラハ・エル・ ホーリ	エジプト・カイロ大 学・考古学部・教授	エジプト文化の研究	エジプト文化の解明と文化 財修復への応用、エジプト 学の国際化
マイサ・マンスール	エジプト・カイロ大 学・考古学部・助教 授(前 専任講師)	遺跡のカビ分析方法の 研究	文化財の長期保全
ラファオ・ロマン・ クーン	ポーランド・ニコラウ ス・コペルニクス大 学・美術学部・科学 技術職	壁画修復の研究	最新修復技術の導入と応 用
西浦 忠輝	国士舘大学・古代イ ラク文化研究所・教 授	遺跡の環境の研究	遺跡の長期保存、専門家 育成
沢田 正昭	国士舘大学・アジア 日本文化研究センタ ー・客員研究員 (前 国士舘大学・21 世紀アジア学部・教 授)	文化財の修復技法、材料の 研究	科学的修復技術の確立、 専門家育成
高鳥 浩介	東京農業大学・ 客員教授	文化財におけるカビ制御の 研究	文化財の長期保全
中村 吉伸	大阪工業大学・ 工学部・教授	文化財保全の高分子材料 の研究	文化財の長期保全
仲 政明	京都嵯峨芸術大学・ 芸術学部・教授 (前 准教授)	文化財復元方法の研究	文化財の修復技術、展示 活用

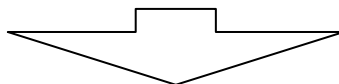
法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<研究者の変更状況(研究代表者を含む)>

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
壁画修復の研究	ポーランド・ニコラウス・コペルニクス大学・美術学部・准教授	エヴァ・ロズネルスカ	最新修復技術の導入と応用

(変更の時期:平成 26 年 12 月 19 日)



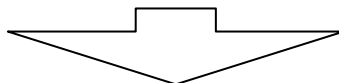
新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

旧

プロジェクトでの研究課題	所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割

(変更の時期:平成 27 年 11 月 18 日)



新

変更前の所属・職名	変更(就任)後の所属・職名	研究者氏名	プロジェクトでの役割
—	ポーランド・ニコラウス・コペルニクス大学・美術学部・科学技術職	ラファオ・ロマン・クーン	最新修復技術の導入と応用

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

11 研究進捗状況(※ 5枚以内で作成)

(1) 研究プロジェクトの目的・意義及び計画の概要

文化財が世界各国で危機的な状態にあるなか、関西大学に「国際文化財・文化研究センター」を設立し、文化財修復技術者の育成と技術の高度化と、多分野横断型の複合的な技術開発、国際的な人材育成、社会人教育とを組み合わせ「総合文化財学」を確立する。このため、(1)文化財の修復の施工を実施する技術者の育成と技術向上、(2)日本の理工系科学の技術を応用する文化財修復技術の向上、(3)文化的な予見に基づく修復を避けるための異文化の研究(エジプト研究、ヨーロッパの異文化研究)の推進と文化財修復への応用、(4)文化財保全技術と知見の普及活動を展開する。初年度には、総合文化財学の基礎構築のため、修復専門技術者養成やエジプト学の基礎講座を開設し、エジプトで文化財を調査する。2年度には、技術者養成やエジプト学講座を進化させ、エジプトでの調査を継続する。3年度には、総合文化財学を成立させるため、文化財科学、理工系科学、異文化研究、エジプト学を統合し、国際的に活躍し、文化財を総合的に扱う人材育成体制を構築する。また、修復技術者養成とエジプト学講座を高度化し、エジプトなどで調査を実施する。4～5年度には、文化財修復技術者を養成し、技術を高度化させ、同時に社会に普及させるとともに、成果を国際シンポジウムなどで発信し、国際的なネットワークを構築して、研究拠点を形成する。

(2) 研究組織

本プロジェクトの推進拠点である関西大学国際文化財・文化研究センター(Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture:略称CHC)は、「国際文化財・文化研究センター運営内規」【別紙資料P1-2】に基づいて運営されている。

研究代表者の役割

研究プロジェクトの統括・管理を行う。研究メンバーの専門分野、所属組織、国籍が多様であることから、PDや特別任用研究員に指示しながら、メール、電話、スカイプなどによって研究プロジェクトの各種事業の調整を行っている。その他、研究の進捗状況、研究員の交代、各年度の研究費の配分と執行、シンポジウム、研究会の開催など、プロジェクト遂行に必要な事項についてセンターの運営委員会での合議を経て決定する。

各研究者の役割分担や責任体制の明確さ

各研究者は、「エジプト学・エジプト社会グループ」「文化財修復グループ」「科学技術グループ」「国際文化グループ」において個々の研究課題に取り組むとともに、「エジプト学・エジプト社会グループ」は吹田、「文化財修復グループ」はアフメド・シュエイブ、「科学技術グループ」は伊藤、「国際文化グループ」は森によってグループ内の調整が行われている。また、プロジェクトの性格から、研究は常時各グループを越えて行われており、各グループ長、最終的にセンター長によって統括されている。運営委員会が随時に開催され、意志の統一や研究の方向性が決められ、責任分担の明確化が行われている。

研究プロジェクトに参加する研究者・大学院生・PDの状況

センターは23名の研究員からなっている。関西大学から13名、国内の他機関から5名、エジプトから4名、ポーランドから1名である。各研究員はそれぞれの研究室にて研究を遂行するとともに、本センター共同研究室を打ち合わせや実験などに使用している。関西大学から事務上のサポートも受けており、それぞれの研究員を結び付けている。プロジェクト開始より、センターでは非常勤研究員2名、PD1名、特別任用研究員3名(延べ6名)を任用している。センターの研究補助を行うとともに、自己の研究を進めている。2013-14年度の特別任用研究員は、東京外国語大学に、2015年7月までの特別任用研究員は在日本サウジアラビア大使館付アラビア語学校(短期大学相当)に職を得ている。非常勤研究員は、壁画復元を担当し、現地の調査の統括・運営ができるようになってきている。また、エジプト学の研究ではカイロ大学考古学部のエジプト学者との共同研究を行い、成果を発表している。大学院生は、「エジプト学・エジプト社会グループ」と「科学技術グループ」から現地調査に参加して、国内外の学会で発表し、複数の論文を公刊している。他にも「科学技術グループ」の院生も実験補助を行い、大学院の研究テーマに選び、学会で発表を行っている。院生は、センターの研究会、シンポジウムへの参加によって、多くの情報を得ている。

研究チーム間の連携状況

プロジェクトにおける専門分野が多様であり、所属機関も複数あり、国籍も3カ国にまたがるため、センター長を軸に積極的に調整が行われている。このプロジェクトは各班の専門分野をこえた連携を前提としており、常に意見交換、議論が行われている。このような交流は、たとえば、文化財修復グループのシュエイブと

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

故ロズネルスカが科学技術グループの中村研究室で文化財への高分子の応用を共同研究していることや、エジプト人研究員のマイサが土戸と高鳥の研究室で研修を受けて、多くの論文を公刊していることにも表れている。また、荒川と川崎がシュエイブとアカリシュとの連携によって、エジプトの資料を分析している。また、カイロ大学考古学部博物館での調査がデモの頻発などで実施できなくなったため、バーレーンに代わりの調査先を見つけることになったのも、日本人研究者とエジプト人研究者の連携によるものである。中国敦煌でのシンポジウムでの発表(2014年)、インカのマチュピチュ遺跡のシンポジウムの開催(2015年)、国際シンポジウム「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」(2015年)、国際シンポジウム「世界の文化財保護—地域に根ざした活動と課題—」(2016年)なども、センターのグループを越えた連携とセンター外の研究機関との連携の成果である。「文化財保存修復セミナー」は、国内の代表的な研究者と当センターの研究者が講師を務め、センター内の高度な連携を必要とするものである。その他、関西大学での各講演会、ワークショップなど、各グループの連携による成果があがっている。

研究支援体制

研究費および施設管理は、本学の研究推進部の職員による支援を受けている。プロジェクト支援室にグループ長を含む専任事務職員が2名おり、特に共同研究室1には、職員2名が常駐し、経費の管理、納品確認などを厳格に行っている。PDと特別任用研究員を延べ4名任用しており、ワークショップ、講演会、シンポジウムの開催、紀要やニュースレターの編集などに携わっている。

共同研究機関等との連携状況

カイロ大と関西大の学術交換協定によって、カイロ大学考古学部の研究者とは密接な協力関係にある。これによって、体系的で総合的なエジプト学と文化財の連続講演「エジプト学・文化財研究セミナー」を開催した。【別紙資料 P12-13】。ポーランドのニコラウス・コペルニクス大の故ロズネルスカは、カイロ大シュエイブ、国立研究センターのアカリシュとともに大阪工業大の中村の研究室で、文化財に応用する高分子の劣化実験を行った。同時に、故ロズネルスカを経てポーランドの研究機関とも接点を維持している。このような連携は、後任のクーンに引き継がれている。カビ相談センターと大阪府立大学とは、カビ・微生物の分析(分類)において協力関係にあり、カイロ大のマイサの技術向上の研修を行っている。

(3) 研究施設・設備等

・研究施設の面積及び使用者数

■総合研究室棟2階(2013年度～)

共同研究室1 40㎡6名〔研究の統括と学外・外国人研究員の研究室及び経費管理、納品確認等〕
24時間365日

共同研究室2 40㎡9名〔研究の推進およびPD・特別任用研究員の研究室・作業室〕24時間365日
実験・講習室 80㎡50名〔モデル壁画の作成等の各種実験およびセミナー開催等〕

・主な研究装置、設備の名称及びその利用時間

デジタルマイクロスコープ(電子顕微鏡)は、日本国内において壁画の劣化実験をはじめとして各種文化財の修復実験や実験用顔料の観察に2013年、2014年、2015年の各年度に300時間程度行い、2015年度には80時間程度使用した。

(4) 進捗状況・研究成果等 ※下記、13及び14に対応する成果には下線及び*を付すこと。

<現在までの進捗状況及び達成度>

2013年度

7月に軍部がモルシ政権を打倒し、その後、数百名の死者が出る事態となった。これを受けて、エジプトでの調査は、外務省の渡航情報に従い、取りやめた。代わりにサッカラの遺跡監督官[*595]、考古省本部の遺跡監督官[*596]、修復技術者3名[*600,601,605]を招聘し、ワークショップと講演によって現地の最新情報を入手し、協力関係を強化した。加えて、サッカラ村の住民(行政官、観光省職員を含む)を招聘し、京都の観光地の活用方法、明日香村の遺跡の活用法を踏まえて、エジプト遺跡の活用法を検討した[*110]。さらに、考古大臣を招聘し、講演に加えて当センターと考古省の研究協力強化を話し合った[*606]。カイロ大の考古学部から、社会・外交・宗教・言語学・歴史のエジプト学者、壁画・石造建築物・パピルス・ガラス・絵画の修復研究者を招聘し、セミナーを開催した。体系的かつ総合的なセミナーとして、日本では初めてであり、日本での研究基盤を強化することができた。このセミナーの内容は、英語に加えて、院生によって日本語に訳されて公刊された【別紙資料 P54】。これらの研究は、4つのグループすべてが関与している。これ

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

らによって、現地調査に相応する研究が日本国内においてもできるようになった。

日本国内の研究も順調に進んでいる。サッカラの3次元データの処理方法について情報工学とエジプト学を組み合わせ、院生を含めて研究を進めた[*7]。科学技術グループは、エジプトの石灰岩におけるカビの文化財への影響研究[*58]と抑制実験[*5]、およびミイラの布の有機物分析[*6]を進めている。日本では石灰岩上のカビ抑制実験は前例がない。ミイラの布の分析をエジプト国外で行うことは、アメリカをはじめ海外の機関でも難しく、当センターの強みである。また、エジプト人研究員が日本の研究者のもとで研究した成果は、古代の石棺のカビの抑制研究[*144]、イチジクの木材への影響[*146]や鉄剣への影響[*145]へと発展している。日本の文化財でのカビ対策の研究は、その対処法がまとめられている[*235]。国際シンポジウムでの発表も院生も含めて行い、情報を発信している[*293]。高分子研究は、壁画修復の前提となるエジプトの脆弱な岩盤強化の実験を続けており、ギザ・サッカラ地域の多くの地下遺跡の保全に日本の技術を試みている[*206]。エジプト学では、エジプト人研究者が発表する[*370]とともに、日本人研究者を指導し[*512]、国際的な基準で成果を公開している[*514]。サッカラ村の調査は、論考を英語にして発信している[*111]。当センターで開発した技術は、マチュピチュ遺跡プロジェクトにも活かされた[*31,156]ほか、国内の多くの遺跡に活かされており[*41,42,43]、石垣補強の工法は安藤ハザマとの共同研究にも寄与している【別紙資料 P5】。国内では壁画の復元実験も行っている[*591,593]。個別の文化財にとどまらず、文化財の保存と活用を正面からとらえた論考も出している[*160]。国際文化グループは、古代に始まるバイアスの研究[*18]、古代と近世にまたがるバイアスの研究[*23]、近世の文化財理解の研究[*27]を公刊し、今日、世界に根深い異文化のイメージ根源をたどろうとしている。

エジプト人研究者は、エジプト大博物館で顔料分析の発表 [*369]に加えて、アレクサンドリア灯台の修復過程の報告[*126]や文化財に使われる石材の研究[*133]を行った。また、ポーランドを日本人研究者と訪問し、研究機関で意見交換を行い、ニコラウス・コペルニクス大学総長と関係構築について話し合った。

社会教育にも成功している。エジプト語講座初級には熱心な受講生を集めた【別紙資料 P18】、「文化財保存修復セミナー」も関西のみならず、関東からも熱心な受講生を集めた【別紙資料 P15】。センターの活動の紹介のために、文部科学省展とし12月から3月まで、当センターの活動とモデル壁画を紹介した【別紙資料 P56】。関西大学の東京センターにて、センター長が「関西大学のエジプト調査10年の歩み」を講演した【別紙資料 P12】。文化財保存修復学会でもセンターの活動を公開している[*254]。

2014年度

9月に、サッカラのイドゥートで岩盤強化と劣化の記録のための調査を行った。翌年3月に、再度サッカラで岩盤強化の実験を行った。1月に日本人2名がシリアで殺害されると、エジプトへの渡航を禁じる研究機関(国士舘大学・大阪工業大学)もあり、極めて短期の調査になった。翌年度以降もエジプト情勢が好転しなくても成果を上げる体制への変更を検討することになった。

サッカラ村の調査ができなかったため、今までの成果を英語やアラビア語にして発信した[*105,106,107]。国内の研究では、有機物の分析としてミイラ布の分析を進めている[*4]。奈良女子大学と協力し、壁画のバインダーを特定し、国際的に成果を公開した[*298]。抗菌抗黴技術では、文化財における抗カビ研究や文化財のカビの特性研究を行っている[*55,56]。エジプト学では、カイロ博物館の遺物を分析している[*149]。高分子の研究は、岩盤強化の薬剤の配合に研究を進めている[*190]。3次元データを活用する研究は、エジプト学者とともに学会で公開し[*323]、海外の学会で発表している[*326,327]。異文化研究では、古典における異文化理解の研究[*15]、ヨーロッパ伝承と古代エジプトのかかわりの研究[*21]を発表している。文化財修復では、アユタヤ遺跡の保存の研究を発表する[*153,154]など、当センターのネットワークの広がり示している。その他、中国の敦煌での国際シンポジウム [*267,329,362,366]、アメリカの分析学会[*298]、ドイツのミュンヘンでのエジプト学会[*370]など、国際シンポジウムや学会での発表も多く行っている。

当センターの技術は、マチュピチュ遺跡プロジェクトにも活かされており[*37]、国際シンポジウムを当センターで開催し、現地の保存の専門家を招聘した【別紙資料 P8】。当センターの技術は、日本国内の遺跡の地盤強化にも活かされている[*36,38]。サッカラの修復技術者とは技術交流を深めており、当センターの技術がすでに現地で応用されている[*601,604]。ギザ地域の修復責任者とサッカラ遺跡の修復責任者の修復研究を、当センターの紀要に掲載した。その際、論文の書き方を指導し、現地の実務者が研究者として立ちできるように支援した[*549,601]。また、バーレーンの文化財修復責任者の論考[*608]も紀要に掲載し、当センターのネットワークは広がっている。エジプト学の院生の論考も掲載し、若手研究者の育成も進めている[*518]。「文化財保存修復セミナー」【別紙資料 P16】と「中期エジプト語講座初級」【別紙資料 P18】も

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

開催され、多くの熱心な受講生を、当初の予想をこえて関東圏や沖縄などからも集まった。

2015 年度

8月、3月にサッカラで地下埋葬室の岩盤強化の実験と劣化記録の調査を行った。サッカラ村の調査の代わり、アンケートをサッカラ村住民(150名)に実施した。カイロ大学考古学部博物館の調査ができなくなったため、9月にバーレーンで現地文化財管理当局と遺跡のサーベイを実施し、2月に協定を締結し、エジプトとバーレーンの両国で文化財の研究を行う体制とした。2月には国際シンポジウム「世界の文化財保護ー地域に根ざした活動と課題ー」を中国、ポーランド、バーレーン、シリア、エジプト、日本の専門家と開催し、各国の先端研究を結び付けた【別紙資料 P10-11】。1月にはカイロ大学考古学部の研究者によるエジプト学と文化財修復の第2回セミナーを開催し【別紙資料 P13】、「中期エジプト語講座初級」は初級に加えて中級を開設し、エジプト学の専門的知識を広めた。「文化財保存修復セミナー」は内容を高度化して実施した。

その他、「2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良」を東アジア文化遺産学会と共催し【別紙資料 P9】[*375]、センターの研究成果を東アジアの文化財保全活動と結び付けた。関西大学法学部の国際シンポジウム「イスラムと国際社会」でも共催し【別紙資料 P10】、また日本物理学会 2015 秋季大会 市民科学講演会でも講演を行った【別紙資料 P18】。

エジプト遺跡のデータ管理は、3次元化されて、記録管理をこえて活用する段階に移りつつある【*113,516】。カビや微生物の研究[*161,162]は、エジプト人研究員による写本のカビの分析[*141]、抗菌剤の研究[*136]、ファラオ時代石棺の微生物劣化の研究[*137]につながっている。高分子化学[*174]と分析化学[*59]は、エジプト遺跡の資料を用いたセンターならではの成果を出しつつある。エジプト学研究は、学会での発表に加え[*244,247]、カイロ大学で学位取得を進めて、国際的なエジプト学を確立しつつある【別紙資料 P56】。また、アンケートから村の実態解明を進めている[*104]。異文化研究は、ヨーロッパの文化財や文化の観点から文化財の保全の背景を明らかにしつつある[*8,12,20,24]。

当センターのサッカラでのネットワークは強化されており、サッカラの修復技術者が論考を投稿している[*598,603]。センターの若手研究者、院生はエジプトやバーレーンで調査に参加し、センターの紀要に投稿し[*47,113,114,509,511,516,517,518]、学会やシンポジウムで発表を行っている[*279,284,285,286,523,524,525,526,527,528,529,530,531]。

<特に優れた研究成果>

現地の遺跡管理機関・修復機関と極めて良好な関係を維持し、現地調査を行っている。サッカラに関しては調査に問題はないとはいえ、日本側の機関や研究者が渡航を危惧し、短期の活動にならざるを得ないなか、エジプト側との信頼関係の中で、必要な調査を行うことができています。その信頼関係によって、サッカラの修復技術者が本センターの紀要に投稿している[*596,598,599,600,601,603,604,605]。現地実務者から研究の発表の場として評価されている。現地ではできない岩盤強化などの実験はエジプトで行い、その他の研究は現地の研究員などの協力を得て、日本での準備をしたのち、最終の作業を現地で行う体制にすることができた。サッカラ村でも現地との信頼関係があり、アンケートの実施をはじめ、多様な人脈を形成している。また、カイロ大学考古学部博物館に代えて、バーレーンで調査を行うなど、当センターのネットワークは広くかつ強固である。このような国際的で、文理融合的なネットワークを構築することができたことが、当センターの優れた成果であると考えている。

<問題点とその克服方法>

2011年1月に勃発したエジプト革命に続く混乱によって、2013年度は現地調査ができなかった。その後も日本人の活動は短期間に制限された。特にカイロ大学考古学部博物館の遺物の調査は、大学前の広場が衝突の中心地になったことや、博物館で遺物の盗難があったことから全く調査ができないことになった。そのため、現地からの招聘を増やすことによって国内での共同研究を強化した。エジプトでも、現地研究者、現地技術者、企業とのネットワークを強化し、現地情勢に影響されにくい研究体制を構築した。また、新たに、バーレーンにおいて文化財の調査の協定を締結し、エジプトの成果を活かす体制を作った。ポーランド人研究員が2014年12月に逝去し、一時的に修復技術の開発研究が停滞したが、2015年7月にポーランドを訪問し、研究の引継ぎを行い、後任の研究者候補が活動を始めている。当センターの研究は、文理にまたがり、国籍も多様である上に、とりわけ、研究者が既存の学部や学科・専修に依拠していないため、研究が個別に分離してしまう可能性がある。そのため、センターは4つのグループに分かれているとはいえ、ワークショップ、講演会、現地調査などの活動はグループの枠組みを越えて行うことによって、「総合文化財学」に向けての一体性を維持することに成功している。今後は、それぞれの専門分野に戻って活動

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

が分裂しないように、一体性を担保する恒久的な体制を確立することが課題となっている。

＜研究成果の副次的効果(実用化や特許の申請など研究成果の活用の見直しを含む。)＞

本センターが文理を統合した複数の分野でエジプトの遺跡で調査しているため、他の遺跡の調査を行おうとしている研究者へ便宜供与や、調査のノウハウを提供している。エジプトの若手修復者には、2～3年度に国際的な論文の書き方指導を行い、実際に出版できるようになっており、エジプトの実務者のレベルアップと国際化に貢献した。また、エジプトやポーランドやバーレーンの研究者とのネットワークの形成、あるいは、日本国内の文化財研究者や科学者とのネットワークの形成も進み、共同研究が進展している。

＜今後の研究方針＞

エジプト情勢を踏まえつつ、必要に応じて代替の研究で補いつつ、最終の目標である「総合文化財学」を確立する研究を進める。4年度では、現地調査は地下埋葬室の岩盤強化の方法と決定とその実験を行い、壁画と石造建築物の劣化の原因の解明を進める。カイロ大学考古学部博物館での調査に代わって、バーレーンでの研究を推進する。国内において、岩盤強化や抗菌抗黴の実験を進めて、現地で効果を確認する。異文化研究では、欧米のバイアスの研究成果を踏まえて、古代のあり方に沿った文化財の展示方法と公開方法を検討する。エジプト学は、エジプト人研究者の招聘によって、国際的な水準でサッカー遺跡の復元を進める。サッカー村の調査は、現地の住民を介して、その特殊性を明らかにする。中期エジプト語講座と文化財保存修復セミナーは、受講生の意欲が高いため、カリキュラムを高度化する。5年度には、総合文化財学を確立させるために、各グループの成果をまとめる。国際シンポジウムによって公開し、成果を取りまとめて公刊し、国内外の主要な関係機関に配付する。現地若手研究者を含めた研究者の国際的なネットワークを充実させ、エジプトを調査活動の中心にして、日本をはじめとする各国の技術を活用する、自立した研究の拠点完成させる。

＜今後期待される研究成果＞

現地サッカーでの調査は、イドゥートの地下埋葬室のような地下あるいは半地下の遺跡およびその壁画の研究に関して遺跡管理当局から高く評価され、他の遺跡の保全・修復の打診が来るなど、その応用が期待されている。さらに、考古省(外国隊受け入れ責任者)からは遺跡の管理およびその評価の方法についても、アドバイスを求められるなど、当センターの活動は、修復にとどまらず、活用についても評価されている。エジプト学・エジプト社会グループは、欧米で通じるエジプト研究の基礎を築き、国内の社会人のニーズを満足させており、また日本や欧米先進国に未知な部分が残るイスラム社会の特色を明らかにしつつある。科学技術グループによる地下構造の安定化の技術や文化財修復グループによる修復技術は、類似の地下遺跡に応用可能である。また、国際文化グループによる研究は、修復に方向性を与えるとともに、紋切り型の古代エジプト遺跡のイメージを実態に即して提示し、いまだに欧米に根付く異文化へのバイアスの実態を明らかにして文明間の交流に貢献する。科学技術グループの研究は、日本の科学技術を文化財に応用する道を開き、エジプトの科学者との交流をも促進する。このような研究には、日本では大学院生など若手研究者が参加し、それぞれの分野で学際的視野をもって育成がはかられ、エジプトにおいても若手実務者の国際的舞台上での活躍をサポートしている。

＜自己評価の実施結果及び対応状況＞

研究プロジェクト内部の評価システムとして、運営委員会や各グループの委員会にて研究の方向性の調整をはじめとして自己評価を行っており、研究の実施に柔軟な対応をとっている。また、関西大学内部の外部資金審査・評価部会による定期的な進捗状況評価を受けており、平成26年12月の評価では、主に若手研究者の育成、エジプト情勢流動化の外的要因への対応等について指摘を受け、若手研究者の海外派遣の機会を増やし、バーレーンでの調査を新たに増やすなど対応を行った。

＜外部(第三者)評価の実施結果及び対応状況＞

外部評価委員を専門性と国際性のある専門家5名に委嘱している【別紙資料P3-4】。他に例を見ない研究分野の融合とその成果が評価されている一方で、研究員の出身母体が多様なため、プロジェクト終了後も研究成果を活用する道筋について、今後の課題とされた。今後のセンターの課題となっている。その他、ニュースレターや紀要『The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture』として公開し、国内外の主要な研究機関、研究者に送付し、評価を受けている。送付後にメールで意見が寄せられており、評価として参考にしていく。ホームページ、フェイスブック、ツイッターによっても情報を発信し、その反応を評価している。またシンポジウム、研究会を開催し、評価を受けている。センター研究員は、学会発表や論文投稿を行っている。新聞報道によっても評価を受けている【別紙資料P56】。いずれも概ね良好な評価を得ており、これらを受けて、さらに研究を進展させる予定である。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

--

12 キーワード(当該研究内容をよく表していると思われるものを8項目以内で記載してください。)

- (1) エジプト (2) 文化財 (3) 壁画
(4) サッカー (5) 文理融合 (6) 世界遺産
(7) 文化財科学 (8) 古代史

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

上記、11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付すこと。

<雑誌論文>

吹田 浩

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
1	Maisa M. MANSOUR, Adel I. M. AKARISH, Hiroshi SUITA and Ahmed S. A. SHOEIB	Utilization of TiO2 Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
2	肥後時尚、青木彩香、 松下亮、安室喜弘、 吹田浩	イドゥートのマスタバ「第3室西壁」にお ける3次元計測データを用いた復元と 再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月	
3	安室喜弘、松下亮介、 肥後時尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトに おけるモバイルARシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月	
*4	五百崎太輔、山下和子、 アフド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機低分子化合 物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
*5	廣池晋治、坂元仁、 アフド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 高鳥浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上での n-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	
*6	五百崎太輔、山下和子、 アフド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラ の布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	
*7	安室喜弘、松下亮介、 西形達明、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトに おけるアーカイブシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	

森 貴史

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*8	森貴史	州立エジプト美術博物館(ミュンヘン) のリニューアル —ヴィツテルスバッハ家のエジプトコレ クション—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	203-221	2016年3月	
9	森貴史	00年代における物語の主人公の死を 体験すること —『ペルソナ3』の物語とゲーム システムをめぐって—	関西大学文学論集(65-1)	1-24	2015年7月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
10	森貴史	近代エジプト学の成立と所蔵品の帰趨 —ベルリン・エジプト博物館をめぐる—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	163-177	2015年3月	
11	森貴史	00年代以降の虚構をつむぐということ —小路啓之『犯罪王ポポネボ』原論—	関西大学文学論集(64-1)	1-28	2014年7月	

中澤 務

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*12	中澤務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(2) —ヘロドトスとスキュティア—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	223-236	2016年3月	
13	中澤務	ソフィスト文書『ディッソイ・ロゴイ』研究(二)	関西大学文学論集(65-2)	73-90	2015年9月	
14	中澤務	ソフィスト文書『ディッソイ・ロゴイ』研究(一)	関西大学文学論集(65-1)	83-104	2015年8月	
*15	中澤務	古代ギリシアにおける異文化理解の諸相(1) —ノモスとピュシス—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	127-139	2015年3月	
16	中澤務	ソフィスト・プロタゴラスにおける共同体と倫理	関西大学文学論集(64-1)	55-78	2014年7月	
17	中澤務	プロタゴラスの相対主義再考	アルケー(22)	40-52	2014年7月	
*18	中澤務	エジプト・ギリシア・近代ヨーロッパ— 『黒いアテナ』論争のこれから—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	125-133	2014年3月	
19	中澤務	ゴルギアスにおけるロゴスと弁論術— 『ヘレネへの賛辞』研究—	関西大学文学論集(63-3)	23-51	2013年11月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

浜本 隆志

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*20	浜本隆志	古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(2) —アジア伝播を中心に—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	149-188	2016年3月	
*21	浜本隆志	古代エジプトにおける「シンデレラ物語」の世界伝播(3) —ヨーロッパ伝播を中心に—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	141-161	2015年3月	
22	浜本隆志	ドイツ事情紹介:3編	東西学術研究所 「研究報告書」	17-24	2014年3月	
*23	浜本隆志	ナポレオンの地中海域遠征と「アンピール様式」 —パリにおける古代エジプト・ローマ文明—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	81-112	2014年3月	

柏木 治

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*24	柏木治	エジプト古代遺産収集と文明的な位置づけ —ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(2)—	Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	189-201	2016年3月	
25	柏木治	産業主義のメタファー —再考 スタンダールと経済思想(Ⅱ)—	関西大学文学論集(65-2)	191-209	2015年10月	
26	柏木治	再考—スタンダールと経済思想	関西大学文学論集(65-1)	159-176	2015年9月	
*27	柏木治	革命期の文化イデオロギー —ベルナルディーノ・ドロヴェッティと文化遺産(1)—	Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	113-124	2014年3月	
28	柏木治	« le réel » と « l'idéal » のあいだ—スタンダールにおける金銭の問題から—	関西大学文学論集(63-3)	77-96	2013年12月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

伊藤 淳志

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
29	廣瀬竜也、伊藤淳志、 下平祐司	小規模建築物に用いる既製コンクリート杭の支持力特性に関する統計的検討	日本建築学会構造系論文集(80-709)	419-425	2015年3月	※
30	廣瀬竜也、伊藤淳志、 下平祐司	小規模建築物に用いる回転貫入杭の支持力特性に関する統計的検討	日本建築学会構造系論文集(79-701)	933-939	2014年7月	※
*31	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、 沢田正昭、伊藤淳志、 西形達明、藤田晴啓、 森井順之、フェルナンド・ アステータ、チャンピ・ モンテローソ、カルロス・ カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
32	伊藤淳志、井元悠気	打込みによる先端閉塞単管杭の引抜き抵抗	日本建築学会技術報告集 (20-44)	85-88	2014年2月	※
33	石川一真、伊藤淳志、 小椋仁志	根固め部の強度と直径が節杭の支持力特性に与える影響—埋込み杭の拡大根固め部に関する模型実験 その3—	日本建築学会構造系論文集(78-689)	1253-1261	2013年7月	※

西形 達明

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
34	蔦野温也、西形達明、 山本浩之、笠博義、 野間康隆	3次元個別要素法による城郭石垣における鉄筋挿入工法の補強メカニズムの解明	土木学会年次学術講演会		2015年9月	
35	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成、西形達明、 石垣泰輔、井村誠孝	SfMIに基づいた屋外レーザスキャンの最適計画	土木学会論文集F3 (土木情報学)(70-2)	257-264	2015年4月	※
*36	T.Nishigata, H.Kasa, Y.Noma, T.Nishimura, H.Yamamoto, K.Nishida	Field Measurement about the Reinforcement of Castle Masonry Wall by Using Rock Bolts	8th Asian Rock Mechanics Symposium	125-131	2014年10月	※
*37	小野勇、西浦忠輝、 柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」の修復保存	第49回地盤工学研究発表会	45-46	2014年7月	
*38	森本浩行、西田一彦、 北垣聡一郎、西形達明	名古屋城天守台の修復と形態、構造の変遷	土木史研究(34)	95-100	2014年6月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
39	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステレーテ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
40	安室喜弘、松下亮介、西形達明、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるアーカイブシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	
*41	Y. Noma, T. Nishimura, H. Yamamoto, H. Kasa, <u>T.Nishigata</u> and K.Nishida	Investigation of Dynamic Stability on Effect of Restoration for Aged Castle Masonry Wall	10 th International Conference on Urban Earthquake Engineering	1211-1216	2013年9月	※
*42	西村毅、笠博義、山本浩之、西形達明	鉄筋挿入工法による伝統的の石垣の補強における施工性の検討	第68回土木学会年次学術講演会	VI-493	2013年9月	
*43	薦野温也、西形達明、山本浩之、笠博義、西村毅	鉄筋挿入による城郭石垣の修復とその補強効果に関する遠心実験	第68回土木学会年次学術講演会	VI-494	2013年9月	
44	西田一彦、白石建、渡辺誠、鈴木邦男、西形達明	屋島城修復における地盤補強技術の適用について	第48回地盤工学研究発表会	1413-1414	2013年7月	
45	井上貴玄、西形達明、山本浩之、笠博義	城郭石垣の補修に対する補強土工法の適用	第48回地盤工学研究発表会	1661-1662	2013年7月	

土戸 哲明

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
46	高橋淳子、村松芳多子、太田利子、 <u>土戸哲明</u> 、高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	83-98	2016年3月	
*47	原田真美、坂元仁、古田雅一、 <u>高島浩介</u> 、 <u>土戸哲明</u>	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対するガンマ線照射の発育抑制効果の解析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	73-81	2016年3月	
48	Shimazaki, A., Sakamoto, J. J., Furuta, M. and <u>Tsuchido, T</u>	Antifungal activity of diglycerin ester of fatty acids against yeasts and its comparison with those of sucrose monopalmitate and sodium benzoate	Biocontrol Sci		印刷中	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
49	土戸哲明	「ものまもり」バイオへの期待	日本生物工学会誌		印刷中	
50	土戸哲明	安全なカビ・微生物の検査・管理のための人材育成のしくみづくり(その2)	かびと生活、8、(2)	37-40	2015年12月	
51	土戸哲明	安全なカビ・微生物の検査・管理のための人材育成のしくみづくり(その1)	かびと生活、8、(1)	37-40	2015年6月	
52	土戸哲明	地上最強の生物	「菌・カビを知る・防ぐ60の知恵—プロ直伝！防菌防カビの新常識」(日本防菌防黴学会編)化学同人	50-51	2015年6月	
53	土戸哲明	熱で菌が死ぬのはなぜ？	「菌・カビを知る・防ぐ60の知恵—プロ直伝！防菌防カビの新常識」化学同人	122-123	2015年6月	
54	Ihara, N., Sakamoto, J., Yoshida, M., and Tsuchido, T.	Killing effect of peppermint vapor against pink slime-forming microorganisms.	Biocontrol Sci. 20,(2)	91-97	2015年6月	※
*55	村松芳多子、太田利子、高橋淳子、久米田裕子、土戸哲明、高島浩介	文化財環境真菌細胞のタンパク質含量	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	193-199	2015年3月	
*56	廣池晋治、原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	寒天ゲル相系でのアルカノール異性体の抗カビ活性とその阻害作用における疎水性相互作用の役割	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	201-214	2015年3月	
57	廣池晋治、坂元仁、アブド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (1)	135-145	2014年3月	
*58	高島浩介、村松芳多子、太田利子、久米田裕子、高橋淳子、土戸哲明	文化財施設環境中の空中浮遊微粒子と浮遊カビの相関性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture (1)	177-184	2014年3月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

荒川 隆一

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*59	嶋津亮、川崎英也、 荒川隆一	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による高分子フィルム中の添加物の質量分析イメージング	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	123-128	2016年3月	
60	T. Ozawa, I. Osaka, T. Ihozaki, S. Hamada, Y. Kuroda, T. Murakami, A. Miyazato, H. Kawasaki and R. Arakawa	Simultaneous detection of phosphatidylcholines and glycerolipids using matrix-enhanced surface assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry with sputter-deposited platinum film	J. Mass Spectrom.,50,	1264–1269	2015年3月	※
61	Yuki Hokita, Mai Kanzaki, Tomonori Sugiyama, Ryuichi Arakawa, and Hideya Kawasaki	High-Concentration Synthesis of Sub-10-nm Copper Nanoparticles for Application to Conductive Nanoinks	ACS Appl. Mater. Interfaces, 7	19382–19389	2015年3月	※
62	J. Yoshimoto, A. Sangsuwan, I. Osaka, K. Yamashita, Y. Iwasaki, M. Inada, R. Arakawa, and H. Kawasaki	Optical Properties of 2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine-protected Au4 Nanoclusters and Their Fluorescence Sensing of C-reactive Protein	J. Phys. Chem., C, 119	14319–14325	2015年3月	※
63	五百崎太輔、山下和子、アブド・シュエイブ、川崎英也、吹田浩、荒川 隆一	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解 GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
64	R. Shimazu, Y. Yamoto, T. Kosaka, H. Kawasaki, and R. Arakawa	Application of Tapping-mode Scanning Probe Electro spray Ionization to Mass Spectrometry Imaging of Additives in Polymer Films	Mass Spectrometry(3)	7 pages	2014年12月	
65	E. Takai, T. Kitamura, J. Kuwabara, S. Ikawa, S. Yoshizawa, K. Shiraki, H. Kawasaki, R. Arakawa, K. Kitano	Chemical Modification of Amino Acids by Atmospheric-Pressure Cold Plasma in Aqueous Solution	J. Phys. D: Appl. Phys.	285403	2014年7月	※
66	A. Yamamoto, H. Hisatomi, T. Ando, S. Takemine, T. Terao, T. Tojo, M. Yagi, D. Ono, H. Kawasaki, and R. Arakawa	Use of High-resolution Mass Spectrometry to Identify Precursors and Biodegradation Products of Perfluorinated and Polyfluorinated Compounds in End-user Products	Analytical and Bioanalytical Chemistry (406-19)	4745-4755	2014年7月	※
67	S. Nitta, A. Yamamoto, M. Kurita, R. Arakawa, H. Kawasaki	Gold-Decorated Titania Nanotube Arrays as Dual-Functional Platform for Surface-Enhanced Raman Spectroscopy and Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry. doi: 10.1021/am501291d.	ACS Appl Mater Interfaces. (11)	8387-8395	2014年6月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
68	K. Nakai, H. Kawasaki, A. Yamamoto, <u>R. Arakawa</u> , R. N. Grass, and W. J. Stark	Hydrophobic Compounds in Water and Perfluorooctane Sulfonate in Human Serum by Surface-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (SALDI-MS) with Amine Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles	Mass Spectrometry (3)	A0028, (5pp)	2014年6月	※
69	J.Yoshimoto,N.Tanaka, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> ,H. Kawasaki	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(43)	793-795	2014年6月	※
70	M.Kusano,S.Kawabata, Y.Tamura,D.Mizoguchi, M.Murouchi,H.Kawasak i, <u>R.Arakawa</u>	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-Coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年5月	※
71	Y.Otsuka,J.Naitoa,S.S atoha,M.Kyogakua,H.H ashimotoa, <u>R.Arakawa</u>	Imaging Mass Spectrometry of Mouse Brain by Tapping-mode Scanning Probe Electro spray Ionization	Analyst(139)	2336-2341	2014年4月	※
72	Y.Hotta,S.Suiko,J.Moto yanagi,H.Onishi,D.Ioz aki, <u>R.Arakawa</u> ,A.Tsuda	Physical Operation of Hydrodynamic Orientation of an Azobenzene Supramolecular Assembly with Light and Sound	Chem. Comm(50)	5615-5618	2014年4月	※
73	A.Kawase,S.Shirai,Y. amoto, <u>R.Arakawa</u> ,T.Ta kata	Electrochemical Reactions of Lithium-sulfur Batteries: an Analytical Study Using the Organic Conversion Technique	Phys. Chem. Chem. Phys(16)	5615-5618	2014年4月	※
74	T.Yonezawa,H.Tsukam oto,S.Hayashi,Y.Myojin ,H.Kawasaki, <u>R.Arakaw a</u> .	Suitability of GaP Nanoparticles as a Surface-assisted Laser Desorption/ionization Mass Spectroscopy	Analyst(138)	995-999	2014年4月	※
75	五百崎太輔、山下和子、 アフメド・シュエイブ、アー デル・アカリシュ、 川崎英也、吹田浩、 荒川 隆一	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	※
76	J.Yoshimoto,N.Tanaka, M.Inada, <u>R.Arakawa</u> ,H. Kawasaki	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(46)	793-795	2014年2月	※
77	M.Kusano,S.Kawabata, Y.Tamura,D.Mizoguchi, M.Murouchi,H. <u>Kawasak i</u> , <u>R.Arakawa</u> ,K.Tanaka	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年1月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
78	Y. Sugii, M. Inada, H. Yano, Y. Obora, Y. Iwasaki, <u>H. Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u>	Single Nano-sized FeO Nanocrystals with Photoluminescence Properties	J. Nanopart. Res(15)	1379-1386	2013年8月	※
79	A. Yasuda, T. Ishimaru, S. Nishihara, M. Sakai, <u>H. Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u>	A Thiophene-containing Compound as a Matrix for Matrix-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry and the Electrical Conductivity of Matrix Crystals	Eur. J. Mass Spectrom(19)	29-37	2013年4月	※
80	I. Osaka, H. Hisatomi, Y. Ueno, S. Taira, Y. Sahashi, <u>H. Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u>	Two-dimensional Mapping Using Different Chromatographic Separations Coupled with Mass Spectrometry for the Analysis of Ginsenosides in Panax Ginseng Root and Callus	Anal. Sci(29)	429-434	2013年5月	※
81	M. Inuta, <u>R. Arakawa</u> , <u>H. Kawasaki</u>	Protein-modified Silver Nanoplates for the Complementary Analytical Method of Localised Surface Plasmon Resonance and Matrix Assisted Laser Desorption/Ionisation Mass Spectrometry	Analytical Methods(5)	5031-5036	2013年4月	※

川崎 英也

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
82	嶋津亮, 川崎英也, <u>荒川隆一</u>	タッピング型走査プローブエレクトロスプレーイオン化法による高分子フィルム中の添加物の質量分析イメージング	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	123-128	2016年3月	
83	M. Chiba, M. Nguyen Thanh, Y. Hasegawa, Y. Obora, <u>H. Kawasaki</u> , T. Yonezawa,	Synthesis of Binary Solid Solution Cu-Pd Nanoparticles by DMF Reduction for Enhanced Photoluminescent	Properties, J. Mater. Chem. C, 3	514-520	2015年3月	※
84	T. Ozawa, I. Osaka, T. Ihozaki, S. Hamada, Y. Kuroda, T. Murakami, A. Miyazato, <u>H. Kawasaki</u> and <u>R. Arakawa</u>	Simultaneous detection of phosphatidylcholines and glycerolipids using matrix-enhanced surface assisted laser desorption/ionization-mass spectrometry with sputter-deposited platinum film	J. Mass Spectrom.,50,	1264-1269	2015年3月	※
85	Yuki Hokita, Mai Kanzaki, Tomonori Sugiyama, <u>Ryuichi Arakawa</u> , and <u>Hideya Kawasaki</u>	High-Concentration Synthesis of Sub-10-nm Copper Nanoparticles for Application to Conductive Nanoinks	ACS Appl. Mater. Interfaces, 7	19382-19388	2015年3月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
86	J. Yoshimoto, A. Sangsuwan, I. Osaka, K. Yamashita, Y. Iwasaki, M. Inada, <u>R. Arakawa</u> , and <u>H. Kawasaki</u>	Optical Properties of 2-Methacryloyloxyethyl Phosphorylcholine-protected Au4 Nanoclusters and Their Fluorescence Sensing of C-reactive Protein	J. Phys. Chem., C, 119	14319–14325	2015年3月	※
87	五百崎太輔、山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
88	R. Shimazu, Y. Yamoto, T. Kosaka, <u>H. Kawasaki</u> , and <u>R. Arakawa</u>	Application of Tapping-mode Scanning Probe Electro spray Ionization to Mass Spectrometry Imaging of Additives in Polymer Films	Mass Spectrometry(3)	7 pages	2014年12月	
89	M. Chiba, M. Nguyen Thanh, Y. Hasegawa, Y. Obora, <u>H. Kawasaki</u> , T. Yonezawa	Synthesis of Binary Solid Solution Cu-Pd Nanoparticles by DMF Reduction for Enhanced Photoluminescent Properties	J. Mater. Chem. C(3)	514-520	2014年11月	※
90	E. Takai, T. Kitamura, J. Kuwabara, S. Ikawa, S. Yoshizawa, K. Shiraki, H. <u>Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u> , K. Kitano	Chemical Modification of Amino Acids by Atmospheric-Pressure Cold Plasma in Aqueous Solution	J. Phys. D: Appl. Phys.	285403	2014年7月	※
91	K. Nakai, H. Kawasaki, A. Yamamoto, <u>R. Arakawa</u> , R. N. Grass, and W. J. Stark	Hydrophobic Compounds in Water and Perfluorooctane Sulfonate in Human Serum by Surface-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (SALDI-MS) with Amine Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles	Mass Spectrometry (3)	A0028, (5pp)	2014年6月	※
92	A. Yamamoto, H. Hisatomi, T. Ando, S. Takemine, T. Terao, T. Tojo, M. Yagi, D. Ono, <u>H. Kawasaki</u> , <u>R. Arakawa</u>	Use of High-resolution Mass Spectrometry to Identify Precursors and Biodegradation Products of Perfluorinated and Polyfluorinated Compounds in End-user Products	Anal. Bioanal. Chem(406)	4745-4755	2014年5月	※
93	S. Nitta, A. Yamamoto, M. Kurita, <u>R. Arakawa</u> , <u>H. Kawasaki</u>	Gold-Decorated Titania Nanotube Arrays as Dual -Functional Platform for Surface-Enhanced Raman Spectroscopy and Surface-Assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry	ACS Appl. Mater. Interfaces(6)	8387–8395	2014年4月	※
94	Y. Iwasaki, T. Kimura, M. Orisaka, <u>H. Kawasaki</u> , T. Goda, S. Yusa	Label-free Detection of C-reactive Protein Using Highly Dispersible Gold Nanoparticles Synthesized by Reducible Biomimetic Block Copolymers	Chem. Commun (50)	5656-5658	2014年4月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
95	H.Kawasaki, S.Kumar, G.Li, C.Zeng, D.Kauffman, J.Yoshimoto, Y.Iwasaki, R.Jin	Generation of Singlet Oxygen by Photoexcited Au ₂₅ (SR) ₁₈ Clusters	Chem. Mater(26)	2777-2788	2014年4月	※
96	五百崎太輔、山下和子、アブメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	※
97	J.Yoshimoto, N.Tanaka, M.Inada, R.Arakawa, H.Kawasaki	Microwave-Assisted Synthesis of Near-Infrared-Luminescent Ovalbumin-Protected Gold Nanoparticles as a Luminescent Glucose Sensor	Chem. Lett.(46)	793-795	2014年2月	※
98	M.Kusano, S.Kawabata, Y.Tamura, D.Mizoguchi, M.Murouchi, H.Kawasaki, R.Arakawa, K.Tanaka	Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry (LDI-MS) of Lipids with Iron Oxide Nanoparticle-coated Targets	Mass Spectrometry(3)	A0026	2014年1月	※
99	Y.Sugii, M.Inada, H.Yano, Y.Obora, Y.Iwasaki, H.Kawasaki, R.Arakawa	Single Nano-sized FeO Nanocrystals with Photoluminescence Properties	J. Nanopart. Res(15)	1379-1386	2013年8月	※
100	Y.Changlin, L.Gao, S.Kumar, H.Kawasaki, J.Rongchao	Stable Au ₂₅ (SR) ₁₈ /TiO ₂ Composite Nanostructure with Enhanced Visible Light Photocatalytic Activity	J. Phys. Chem. Lett.(4)	2847-2852	2013年8月	※
101	I.Osaka, H.Hisatomi, Y.Ueno, S.Taira, Y.Sahashi, H.Kawasaki, R.Arakawa	Two-dimensional Mapping Using Different Chromatographic Separations Coupled with Mass Spectrometry for the Analysis of Ginsenosides in Panax Ginseng Root and Callus	Anal. Sci(29)	429-434	2013年5月	※
102	M.Inuta, R.Arakawa, H.Kawasaki	Protein-modified Silver Nanoplates for the Complementary Analytical Method of Localised Surface Plasmon Resonance and Matrix Assisted Laser Desorption/Ionisation Mass Spectrometry	Analytical Methods(5)	5031-5036	2013年4月	※
103	A.Yasuda, T.Ishimaru, S.Nishihara, M.Sakai, H.Kawasaki, R.Arakawa, Y.Shigeri	A Thiophene-containing Compound as a Matrix for Matrix-assisted Laser Desorption/Ionization Mass Spectrometry and the Electrical Conductivity of Matrix Crystals	Eur. J. Mass Spectrom(19)	29-37	2013年4月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

岡 絵理子

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*104	岡絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その5) —サッカラ村居住者の遺跡や村への認識の実態—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	23-30	2016年3月	
*105	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示— [英語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	5-21	2015年3月	
*106	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示— [アラビア語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	21-37	2015年3月	
*107	岡絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構造(その4)—「古い村」(カルヤ型集落)としてのサッカラ村の現状— [アラビア語版]	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	39-48	2015年3月	
108	岡絵理子	祭りの舞台となる町並み・住まいに関する研究 —樺原市八木地区の愛宕祭を事例に—	日本建築学会計画系論文集 (79-703)	1955-1961	2014年9月	※
109	高橋佳那、岡絵理子	居住からみた千里ニュータウン近隣センターの再生・再編に関する基礎的研究：長屋型店舗付住宅の居住実態調査を通して	日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系(54)	353-356	2014年6月	
*110	徳勢貴彦、岡絵理子	臨遺跡集落モデルとしての奈良県明日香村の遺跡と集落の暮らし—サッカラ村の今後を考えるための方向性の提示—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	1-12	2014年3月	
*111	Eriko Oka	Life and Spatial Structure in Saqqara Village,a Settlement Adjacent to an Archaeological Site (Vol.4):The Existing State of Saqqara as an"Old Village"(Karya-Type Village)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	13-21	2014年3月	
112	Eriko Oka	The Alterations of Sites and the Houses in the KOHAMA Village	International Seminar on Architecture in Urbanized Maritime Culture	1-8	2013年9月	※

安室 喜弘

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*113	肥後時尚、青木彩香、松下亮介、安室喜弘、吹田浩	イドゥートのマスタバ「第3室西壁」における3次元計測データを用いた復元と再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*114	安室喜弘、松下亮介、肥後尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるモバイルARシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月	
115	北田祐平、安室喜弘、檀寛成、西形達明、石垣泰輔、井村誠孝	SfMに基づいた屋外レーザスキャンの最適計画	土木学会論文集F3 (土木情報学)(70-2)	257-264	2015年4月	※
116	Yusuke Inui, Yoshihiro Yasumuro, Hiroshige Dan	A Server-Client Ssystem for Optimized Planning of Outdoor 3D Laser Scanning	Journal of Society for Social Management Systems(3)	13-2727	2014年5月	※
117	安室喜弘、松下亮介、西形達明、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるアーカイブシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	153-165	2014年3月	

鶴田 浩章

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
118	鶴田浩章、島川和之、中嶋亮介、上田尚史	シラン系塗布後にけい酸塩系を塗布した表面含浸材の併用による劣化抑制効果への影響	コンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集(14)	533-560	2014年10月	※
119	上田尚史、谷口拓峰、鶴田浩章	マトリクスと繊維の違いがFRCCはりのせん断破壊挙動に及ぼす影響に関する実験的研究	コンクリート工学年次論文集(36-2)	1147-1152	2014年7月	※
120	K.SHIMAKAWA, H.TSURUTA	A Study on the Effects of the Combination of Surface Penetrants in Combining Silicate-and-silane-type Surface Penetrants on Inhibition Deterioration in Concrete	Science and Technology Reports of Kansai University(56)	39-48	2014年3月	
121	鶴田浩章、島川和之、中嶋亮介	表面含浸材の併用における含浸材の組合せによる劣化抑制効果への影響	コンクリート構造物の補修、補強、アップグレード論文報告集(13)	113-118	2013年10月	※
122	中嶋亮介、鶴田浩章	劣化を生じたコンクリートにおける表面含浸材の併用による劣化抑制効果に関する検討	コンクリート工学年次論文集(35-1)	1681-1686	2013年8月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

アフメド・サイエド・アフメド・シュエイブ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
123	<u>Maisa M. MANSOUR,</u> <u>Adel I. M. AKARISH,</u> <u>Hiroshi SUITA and</u> <u>Ahmed S. A. SHOEIB</u>	Utilization of TiO ₂ Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
124	<u>Ahmed Shoeib and</u> <u>Salman Almahari</u>	Characterization of Old Mortars from Historic Buildings in Muharraq, Bahrain	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	89-96	2015年3月	
125	五百崎太輔、山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	ミイラの布に含まれる有機低分子化合物の熱分解GC-MS分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	179-184	2015年3月	
*126	<u>Adel M. Akarish,</u> <u>Ahmed S. A. Shoeib</u> and A.Nageh	Removal of the White Marine Deposits Disfiguring the Granitic Monumental Objects of Alexandria Lighthouse, Alexandria, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	55-66	2014年3月	
127	廣池晋治、坂元仁、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>吹田真里子</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>高島浩介</u> 、 <u>土戸哲明</u>	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	
128	五百崎太輔、山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ</u> 、 <u>アエデル・アカリシュ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆一</u>	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラの布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	

アエデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
129	<u>Maisa M. MANSOUR,</u> <u>Adel I. M. AKARISH,</u> <u>Hiroshi SUITA and</u> <u>Ahmed S. A. SHOEIB</u>	Utilization of TiO ₂ Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
130	Khaled S.Abou-El-Sherbini, Nady .Fathy, Sayed A. Drweesh, Mohammad Wahba, Adli A.Hanna, <u>Adel I.M Akarish,</u> Eman A. M. Elzahany, Iman Y. El-Sherif	Equilibrium, Kinetic and Thermodynamic Studies of Adsorption of Pb(II) from Aqueous Solutions on HCl-Treated Kaolin	Separation Science and Technology		2015 Peer Review	
131	<u>Adel I. M. Akarish,</u> <u>Ahmed S.A.Shoeib and</u> A.Nageh	Removal of the White Marine Deposits Disfiguring the Granitic Monumental Objects of Alexandria Lighthouse, Alexandria, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	55-66	2014年3月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
132 五百崎太輔、山下和子、 <u>アフメド・シュエイブ、ア デル・アカリシュ、</u> 川崎英也、吹田浩、 荒川隆二	GC-MS及びATR-IR分析によるミイラ の布の有機付着物分析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	147-152	2014年3月	
*133 Hassan, M.M., El- Gohary, A.M. and <u>Adel I. M. Akarish</u>	Preliminary Record of Proterozoic Paleo-placer Gold in Gebel Ghazalani Area: Chemo- stratigraphic Evidence Closing Debate about Sedimentation Sequence, East Sinai, Egypt.	Egyptian Journal of Geology (57)	355-363	2013年12月	

マイサ・マンズール

著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
134 <u>Maisa M. MANSOUR,</u> <u>Adel I. M. AKARISH,</u> Hiroshi SUITA and <u>Ahmed S. A. SHOEIB</u>	Utilization of TiO ₂ Nanoparticles to Protect Limestone Artifacts against Microorganisms Attack	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	111-122	2016年3月	
135 Maisa M. Mansour	Study of Cellulosic Fiber Degradation by Four Common Fungi: Chromatic Alterations and SEM Examination	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	99-110	2016年3月	
*136 Mohamed Z.M. Salem , Yassin E. Zidan , <u>Maisa</u> <u>M.A. Mansour</u> , Nesrin M.N. El Hadidi ,Wael A.A. Abo Elgat	Antifungal activities of two essential oils used in the treatment of three commercial woods deteriorated by five common mold fungi	International Biodeterioration & Biodegradation 106	88-96	2016年	
*137 Abdou A.O.D. El- Derby, <u>Maisa M.A.</u> <u>Mansour</u> and Mohamed Z.M. Salem	Investigation the Microbial Deterioration of Sandstone from the Osirion's Sarcophagus Chamber as Affected by Rising Ground Water Level	Mediterranean Archaeology and ArchaeometryVol. 16	273-281	2016年	
138 <u>Maisa M. A.Mansour</u> Mohamed Z.M. Salem Mohamed H. Khamis and Hayssam M. Ali	Evaluation of Wood Treated with Some Natural Extracts and Paraloid B-72 against the Fungus Trichoderma Harzianum: Wood Elemental Composition, In-vitro and Application Evidence	International Biodeterioration & Biodegradation	62-69	2015年	※
139 <u>Maisa M. A. Mansour,</u> Mohamed Z. M.Salem	Natural Durability of Citharexylum Spinosum and Morus Alba Woods against Three Mold Fungi	bioresources.com(10-3)	5330-5344	2015年	※
140 <u>Maisa M. A. Mansour,</u> Ahmed Abdel-Megeed, Ramadan A. Nasser, Mohamed Zidan Mohamed Salem	Comparative Evaluation of Some Woody Tree Methanolic Extracts and Paraloid B-72 against Phytopathogenic Mold Fungi Alternaria Tenuissima and Fusarium Culmorum	bioresources.com(10-2)	2570-2584	2015年	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*141	Wafika Noshyi Eman Osmanii , and <u>Maisa M.A.Mansour</u>	An Investigation of Biological Fungicidal Activity of Some Essential Oils as Preservatives for 19th- century Egyptian Coptic Cellulosic Manuscript	ECHNART 2015 notification for paper 200	the volume is not print	2015年	
142	Mohamed Z. M. Salem, <u>Maisa M. A. Mansour</u> , Mohamed H. Khamis, c and Hayssam M. Ali	Biological Resistance of Citharexylum Spinosum and Morus Alba Woods against Some Mold Fungi	bioresources.com(10-1)	the volume is not print	2015年	※
143	Mohamed Z. M. Salem, a* Hayssam M. Ali, b and <u>Maisa Mansour</u>	Fatty Acid Methyl Esters from Air-Dried Wood, Bark, and 2 Leaves of Brachychiton Diversifolius R. Br: 3 Antibacterial, Antifungal, and Antioxidant Activities	Bioresources (19-3)	3835- 3845	2014年7月	※
*144	Maisa M. Mansour	Proactive Investigation Using Bioagents and Fungicide for Preservation of Egyptian Stone Sarcophagus	Journal of Applied Sciences Research,	1917-1930	2013年7月	
*145	Zidan, Yassin1; El Hadidi, Nesrin2; <u>Mansour, Maisa</u> 3; Abo Elgat, Wael4	Treatment and Restoration of Antique Sword from Ottoman Period (13th AH /19th AD century) at the National Military Museum - Saladin Citadel in Egypt	6 International Congress th"Science and Technology for the Safeguard of Cultural Heritage in the Mediterranean Basin"	the volume is not print	2013年7月	
146	Sawsan. S. DARWISH, Nesrin M.N. EL HADIDI, <u>Maisa Mansour</u>	The Effect of Fungal Decay on Ficus Sycomorus Wood	International Journal of Conservation Science	271-282	2013年7月	

サラール・ハ・エル・ホーリ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
147	Salah el-Kholy	Ostraka Gardiner 32	Göttingr Miscellen (GM)	(掲載予定のため未定)	will be published in a coming vol. At the beginning of 2015	
148	Salah el-Kholy	An Inscribed Stone Weight from the Collection of the Egyptian Museum in Cairo	will be published in the Journal of the Faculty of Archaeology	(掲載予定のため未定)	The Journal Volume of 2015	
*149	Salah el-Kholy	An Ancient Egyptian Piece of Weight in the Cairo Museum	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	1-4	2015年3月	
150	Salah el-Kholy	Die Sammlungen in den Museen der Universität Kairo aus Tuna el Gebel	Book of the conference: Die ferne Welt in Munich Januar 2013		will be published in the conference Book at the end of 2014	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

西浦 忠輝

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
151	西浦忠輝	2015 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in 奈良	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	237-277	2016年3月	
152	西浦忠輝	ペルー共和国マチュピチュ遺跡建造物の保存修復に関する調査研究	文化遺産研究(9)	1-11	2016年3月	
*153	Tadateru NISHIURA	Conservation of Ayutthaya Historical Site as a Result of Major Floods	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	81-87	2015年3月	
*154	西浦忠輝	大洪水後のアユタヤ遺跡の保存について	文化遺産研究(8)	81-85	2015年3月	
155	小野勇、西浦忠輝、柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」の修復保存	第49回地盤工学研究発表会	45-46	2014年7月	
*156	西浦忠輝	マチュピチュ遺跡保存修復プロジェクト [中間報告]	文化遺産研究(7)	143-153	2014年3月	
157	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステータ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	
158	西浦忠輝	沖縄県、世界遺産・園比屋武御嶽石門の保存修復	東亜文化遺産保存学会 第二次学術検討会論文集	232-238	2013年8月	

沢田 正昭

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
159	西浦忠輝、岡田保良、柴田英明、小野勇、沢田正昭、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、フェルナンド・アステータ、チャンピ・モンテローソ、カルロス・カノー	Conservation of the Machu-picchu Archaeological Site: Investigation and Experimental Reatoration Works of the "Temple of the Sun"	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	67-79	2014年3月	

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*160	沢田正昭	保存科学からみた遺跡の保存・活用	遺跡学研究(10)	150-157	2013年9月	

高鳥 浩介

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*161	高橋淳子、村松芳多子、 太田利子、土戸哲明、 高鳥浩介	器物におけるカビの発育に関する研究	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	83-98	2016年3月	
*162	原田真美、坂元仁、古田 雅一、高鳥浩介、土戸哲 明	文化財汚染にみられる好乾性および 耐乾性カビ孢子に対するガンマ線照射 の発育抑制効果の解析	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	73-81	2016年3月	
163	高鳥浩介分担	コラム「カビ」	Newton	84-87	2016年1月	
164	高鳥浩介	数値の読み方 - 工学と生物学からみ た数値 -	空気清浄 第53巻 第2号 コンタミネーションコントロール	59-60	2015年7月	
165	高鳥浩介、吉川翠	梅雨のじめじめ対策 カビ・ダニを撃退してクリーン&健康に	へるすあつぷ21 No368	44-51	2015年6月	
166	高鳥浩介、柳田連太郎、 久米田裕子、高橋淳子、 早川典子、加藤雅人、 佐藤嘉則、木川りか	紙本絹本の温湿度差によるカビ発生	保存科学(54)	133-144	2015年4月	※
167	村松芳多子、太田利子、 高橋淳子、久米田裕子、 土戸哲明、高鳥浩介	文化財環境真菌細胞のタンパク質 含量	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	193-199	2015年3月	
168	廣池晋治、原田真美、 坂元仁、古田雅一、 高鳥浩介、土戸哲明	寒天ゲル相系でのアルカノール異性体 の抗カビ活性とその阻害作用における 疎水性相互作用の役割	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	201-214	2015年3月	
169	高鳥浩介	環境真菌と生態	日本医真菌学会(55-3)	97-106	2014年9月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
170	廣池晋治、坂元仁、 アフレド・シュエイブ、 吹田真里子、吹田浩、 高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上での n-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月	
171	高島浩介、村松芳多子、 太田利子、久米田裕子、 高橋淳子、土戸哲明	文化財施設環境中の空中浮遊微粒子 と浮遊カビの相関性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	177-184	2014年3月	
172	高島浩介、高橋淳子、 太田利子	真菌に対する保存料の有効性評価	FOODS & FOOD INGREDIENTS JOURNAL OF JAPAN,(218-2)	149-157	2013年6月	※
173	高島浩介、太田利子、 高橋淳子、村松芳多子	環境中の真菌分布と生活	日本職業・環境アレルギー学会誌(20- 2)	21-29	2013年6月	※

中村 吉伸

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
*174	中村吉伸、嘉流望、 野田昌代、豊川翔、 藤井秀司	高分子/無機ハイブリッド接着剤による 遺跡の脆弱な壁の補強の検討	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	129-136	2016年3月	
175	N. Karyu, M. Noda, S. Fujii, Y. Nakamura and Y. Urahama	Effect of adhesive thickness on the wettability and deformability of polyacrylic pressure-sensitive adhesives during probe tack test	Journal of Applied Polymer Science, DOI: APP43639	Online発行 のみ	2016年3月	※
176	嘉流望、野田昌代、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	プローブタック試験時の濡れ挙動にお よぼす粘着剤の分子構造の影響	日本接着学会誌 (52-3)	59-69	2016年3月	※
177	中村吉伸、嘉流望、 野田昌代、藤井秀司	シランカップリング剤処理における加水 分解および縮合反応のコントロール	日本接着学会誌 (52-1)	9-15	2016年1月	※
178	藤井秀司、中村吉伸	虫の蜜をヒントにべたつかない粘着剤 を開発！	化学71巻1号,72 (2016)	72	2016年1月	
179	R. Yamazaki, N. Karyu, M. Noda, S. Fujii and Y. Nakamura	Quantitative Measurement of Physisorbed Silane on Silica Particle Surface Treated with Silane Coupling Agents by Thermogravimetric Analysis	Journal of Applied Polymer Science(133-14)	3361-3369	2016年1月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
180	K. Fukuoka, A. Tomikawa, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Aqueous foams stabilized with several tens of micrometer-sized polymer particles: Effects of surface hydrophilic-hydrophobic balance on foamability and foam stability	Chem. Lett. doi:10.1246/cl.160182	Online発行のみ	2016	※
181	S. Ohno, Y. Tsuda, K. Nakai, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> , S. Yusa	pH-Responsive Liquid Marbles Prepared by Fluorinated Fatty Acid	Chem. Lett. doi:10.1246/cl.160056	Online発行のみ	2016	※
182	N. Nishizawa, A. Kawamura, M. Kohri, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Polydopamine particle as a particulate emulsifier	Polymers 8巻 DOI: 10.3390/polym8030062	62	2016	※
183	M. Paven, H. Mayama, T. Sekido, H.-J. Butt, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Light-driven delivery and release of materials using liquid marbles	Adv. Funct. Mater. DOI: 10.1002/adfm.201600034		2016	※
184	S. Fujii, S. Sawada, S. Nakayama, M. Kappl, K. Ueno, K. Shitajima, H.-J. Butt, <u>Y. Nakamura</u>	Pressure-Sensitive Adhesive Powder	Materials Horizons 3巻 DOI: 10.1039/c5mh00203f	47-52	2016	※
185	H. Takeoka, S. Wada, S. Yusa, S. Sakurai, <u>Y. Nakamura</u> , S. Fujii	Thermo-Responsive Polypyrrole-Palladium Nanocomposite Particles Synthesized by Aqueous Chemical Oxidative Dispersion Polymerization	Journal of The Adhesion Society of Japan (Special Issue, WCARP-V) 51巻S1号	255-263	2015年10月	※
186	K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> and Y. Urahama	Effect of Adhesive Thickness on The Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	Journal of Applied Polymer Science,(132-27)	8615-8624	2015年7月	※
187	<u>Y. Nakamura</u> , R. Yamazaki, K. Shitajima, N. Karyu and S. Fujii	Aspects of Interfacial Structure of Silane Coupling Agents in Particulate-Filled Polymer Composites and the Reinforcement Effect	Reviews of Adhesion and Adhesives, (3-2), DOI: 10.1002/app.42210.10.7569/RAA.2015.097306	188-215	2015年6月	※
188	N. Karyu, K. Shitajima, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> , Y. Urahama,	Contact Time Dependence of Tack for Crosslinked Polyacrylic Pressure-sensitive Adhesives with Two Different Molecular Structures	International Journal of Adhesion and Adhesives, DOI: 10.1016/j.ijadhadh.2015.04.001.	75-82	2015年5月	※
189	K. Shitajima, N. Karyu, K. Takada, S. Fujii, <u>Y. Nakamura</u> and Y. Urahama	Temperature Dependence of Tack for a Polyacrylic Block Copolymer/Tackifier Blend	Polymers & Polymer Composites(23-3)	121-128	2015年4月	※
190	中村吉伸、下嶋康平、嘉流望、福田知由、藤井秀司	シラン化合物の混合方法が複合系の特性におよぼす影響	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	185-192	2015年3月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
191	中村吉伸、山崎諒太、下嶋康平、嘉流望、藤井秀司	シランカップリング剤処理層中の物理吸着分子の熱重量分析による定量	日本接着学会誌(51-2)	42-48	2015年2月	※
192	Y. Nakamura, K. Yamamura, N. Karyu, K. Shitajima, S. Fujii and Y. Urahama	Influences of Debonding Rate and Temperature on Tack Properties and Peel Behavior of Polyacrylic Block Copolymer/Tackifier System	Journal of Adhesion Science and Technology(29-9)	821-838	2015年2月	※
193	K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, Y. Nakamura and Y. Urahama	Sawtooth-Shaped Stringiness with Front Frame Formation for Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives with Two Different Molecular Structures	Journal of Adhesion Science and Technology(29-7)	609-623	2015年1月	※
194	E. Sato, M. Yuri, S. Fujii, T. Nishiyama, Y. Nakamura, H. Horibe	Liquid marbles as a micro-reactor for efficient radical alternating copolymerization of diene monomer and oxygen	Chem. Commun. 51巻, DOI: 10.1039/c5cc07421e.	17241-17244	2015	※
195	S. Nakayama, S. Yusa, Y. Nakamura, S. Fujii	Aqueous Foams Stabilized by Temperature-Sensitive Hairy Polymer Particles	Soft Matter 11巻, DOI: 10.1039/C5SM02187A	9099-9106	2015	※
196	K. Ueno, G. Bournival, E. J. Wanless, S. Nakayama, E. C. Giakoumatos, Y. Nakamura, S. Fujii	Liquid Marble and Water Droplet Interactions and Stability	Soft Matter 11巻, DOI: 10.1039/C5SM01584G	7728-7738	2015	※
197	S. Fujii, K. Kobayashi, Y. Nakamura, T. Okubo	Drying structures of micron-sized cationic gel spheres of lightly cross-linked poly(2-vinyl pyridine) in the deionized aqueous suspension	Colloid Polym. Sci. 293巻, DOI 10.1007/s00396-015-3575-y	1855-1864	2015	※
198	K. Nakai, S. Fujii, Y. Nakamura, S. Yusa	Thermo-responsive Liquid Marbles Prepared with Low Melting Point Powder	Chem. Lett. 44巻, DOI:10.1246/cl.150381	1077-1079	2015	※
199	H. Imoto, Y. Nakao, N. Nishizawa, S. Fujii, Y. Nakamura, K. Naka	Tripodal Polyhedral Oligomeric Silsesquioxanes as Novel Class of Three-Dimensional Emulsifiers	Polym. J. 47巻, DOI:10.1038/pj.2015.38	609-615	2015	※
200	山中真也、藤本敏行、空閑良壽、藤井秀司、中村吉伸	ホタテ貝殻ナノ粒子を乳化剤に用いたエマルションの応用展開	機能材料(7)	17-22	2014年7月	
201	S. Fujii, Y. Yamashita, Y. Nakamura, A. Tsuchida, T. Okubo	Cationic Gel Crystals and Amorphous-solids of Lightly Cross-linked Poly (2-vinylpyridine) Spheres in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science(292-7)	1627-1637	2014年7月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
202	Y.Nakamura,R.Yamazaki,T.Fukuda,K.Shitajima,S.Fujii and M.Sasaki	Structure of Silane Layer Formed on Silica Particle Surfaces by Treatment with Silane Coupling Agents Having Various Functional Groups	J. Adhesion Sci. Technol., DOI: 10.1080/01694243.2014.926576	1895-1906	2014年6月	※
203	K.Ito,K.Shitajima,N.Karyu,S.Fujii,Y.Nakamura and Y.Urahama	Influence of the Degree of Crosslinking on the Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	J. Appl. Polym. Sci. (131-11)	5550-5560	2014年6月	※
204	S. Fujii, Y. Eguchi, Y. Nakamura	Pickering Emulsion Engineering: Fabrication of Materials with Multiple Cavities	RSC Advances(4-61)	32534-32537	2014年6月	※
205	K. Ito, K. Shitajima, N. Karyu, S. Fujii, Y. Nakamura and Y. Urahama	Influence of Interfacial Adhesion on The Stringiness of Crosslinked Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	Journal of Applied Polymer Science(131-19)	10160-10168	2014年5月	※
*206	中村吉伸、山崎諒太、下嶋康平、藤井秀司	シリカ、アルミナ、炭酸カルシウムへのシランカップリング剤の反応性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	167-176	2014年3月	
207	K.Yamamura,K.Shitajima,S.Fujii,Y.Nakamura,Y.Hamada,S.Hagiwara,H.Kishi,Y.Urahama,M.Sasaki	Temperature Dependence of Tack and Pulse NMR Analysis of Polystyrene Block Copolymer/Tackifier System	J. Adhesion Sci. Technol (27-24)	2727-2740	2013年12月	※
208	T.Okubo,S.Fujii,Y.Nakamura	Drying Dissipative Structures of Cationic Gel Spheres of Lightly Cross-linked Poly (2-vinyl Pyridine) (170 ~ 180 nm in Diameter) in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science (291-12)	2805-2813	2013年12月	※
209	T.Okubo,S.Fujii,K.Aono,Y.Nakamura	Cationic Gel Crystals of Lightly Cross-linked Poly(2-vinylpyridine) Spheres (170~180 nm in Diameter) in the Deionized Aqueous Suspension	Colloid and Polymer Science (291-12,11)	2569-2577	2013年11月	※
210	T.Fukuda,S.Fujii,Y.Nakamura,M.Sasaki	Mechanical Properties of Silica Particle-Filled Styrene-Butadiene Rubber Composites Containing Polysulfide-Type Silane Coupling Agents: Influence of Loading Method of Silane	J. Appl. Polym. Sci(130-1)	322-329	2013年10月	※
211	S.Yusa,M.Morihara,K.Nakai,S.Fujii,Y.Nakamura,A.Maruyama,N.Shimada	Thermo-responsive Liquid Marbles	Polymer Journal(46)	145-148	2013年10月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月	査読
212	T.Fukuda,S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> ,M.Sasaki	Tensile Properties of Styrene-Butadiene Rubber/Silica Composites with Mercapto Functional Silane Coupling Agents: Influences of Loading Method and Alkoxy Group Number	Composite Interfaces(20-8)	635-646	2013年9月	※
213	<u>Y.Nakamura</u> ,K.Imamura,K.Yamamura,S.Fujii and Y.Urahama	Influence of Crosslinking and Peeling Rate on Tack Properties of Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesives	J. Adhesion Sci. Technol (27-17)	1951-1965	2013年8月	※
214	H.Shinto,T.Hirata,T.Fukasawa,S.Fujii,H.Maeda, <u>M.Okada</u> , <u>Y.Nakamura</u> ,T.Furuzono	Effect of Interfacial Serum Proteins on Melanoma Cell Adhesion to Biodegradable Poly(L-lactic Acid) Microspheres Coated with Hydroxyapatite	Colloids and Surfaces B: Biointerfaces(108)	8-15	2013年8月	※
215	<u>Y.Nakamura</u> ,E.Kariya,T.Fukuda,S.Fujii,K.Fujiwara and S.Hikasa	Glass Transition Behavior of PMMA/PVA Incompatible Blend	Polym. Polym. Compos(21-6)	367-376	2013年6月	※
216	<u>Y.Nakamura</u> ,Y.Nishida,T.Fukuda,S.Fujii and M.Sasaki	Mechanical Properties of Silane-treated Silica Particle-filled Polyisoprene Composites: Influence of Alkoxy Group Mixing Ratio in Silane Coupling Agent Containing Mercapto Group	J. Appl. Polym. Sci.128-4)	2548-2555	2013年5月	※
217	S.Fujii,Y.Yokoyama,Y.Miyanari,T.Shiono,M.Ito,S.Yusa, <u>Y.Nakamura</u>	Micrometer-sized Gold-silica Janus Particles as Particulate Emulsifiers	Langmuir(29-18)	5457-5465	2013年5月	※
218	K.Nakai,S.Fujii, <u>Y.Nakamura</u> ,S.Yusa	Ultraviolet Light-responsive Liquid Marbles	Chem. Lett.(42-7,5)	586-588	2013年5月	※

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<図書>

森 貴史

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
219	溝井裕一、細川裕史 齊藤公輔編著	想起する帝国	(共著)	勉誠出版	2016年6月(予定)	
220	田野大輔、柳原伸洋 編著	教養のドイツ現代史	(共著)	ミネルヴァ書房	2016年5月(予定)	
221	浜本 隆志編著	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	第4章、第11章	明石書店	2015年9月	400
222	森貴史	ドイツ王侯コレクションの文化史 禁断の知とモノの世界	(編著)	勉誠出版	2014年12月	368
223	森貴史、細川裕史、 溝井裕一	ドイツ奇人街道	(共著)	関西大学出版部	2014年7月	331

中澤 務

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
224	中澤務	プラトン『饗宴』	単著(訳)	光文社	2013年9月	295

浜本 隆志

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
225	浜本隆志	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	編著 序章、第1章、第2章、第3 章第6章、第7章、終章	明石書店	2015年9月	400
226	浜本隆志	バレンタインデーの秘密 愛の宗教文化史	単著	平凡社	2015年1月	254

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
227	浜本隆志	デッサウ ヴェルリッツの奇想庭園王国 『ドイツ王侯コレクションの文化史 禁断の知とモノの世界』森 貴史編所収	分担執筆	勉誠出版	2015年1月	41
228	浜本隆志	海賊党の思想 —フリーダウンロードと液体民主主義—	単著	白水社	2013年7月	180

柏木 治

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
229	浜本隆志編著	欧米社会の集団妄想とカルト症候群 —生成メカニズムの宗教・社会史的考察—	第9章、第10章	明石書店	2015年9月	400

伊藤 淳志

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
230	富永晃司、伊藤淳志、 他	建築学構造シリーズ 建築基礎構造	139-165	オーム社	2013年9月	228

土戸 哲明

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
231	土戸哲明	菌・カビを知る・防ぐ60の知恵—プロ直伝！防菌防カビの基礎知識(日本防菌防黴学会編)	5	化学同人	2015年6月	
232	土戸哲明	微生物の簡易迅速検査法(五十君静信、江崎孝行、高鳥浩介、土戸哲明監修)	損傷菌 (183-187)	テクノシステム	2013年11月	739
233	土戸哲明、坂元仁	カビのはなし—生活環境の被害と対策 (高鳥浩介、久米田裕子編)	かびを防ぐ (109-122)	朝倉書店	2013年9月	164

高鳥 浩介

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
234	安部恵子、川上祐司、 須山裕之、柳宇編著 安部恵子、石松維世、 榎村浩一、小田尚幸、 須山裕之、高鳥浩介、 谷口正美、柳宇	空中環境における微生物対策	第6章微生物汚染の実体 と調査 6.1住宅6ページ	技報堂出版	2016年3月	16

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
*235	高島浩介、久米田裕子監修	文化財の虫菌害防除と安全の知識	第3章文化財に対するカビ被害とその予防	文化財虫菌害研究所	2014年5月	80
236	五十君静信、江崎孝行、高島浩介、土戸哲明監修	微生物の簡易迅速検査法	第4章第5節生活環境微生物3ページ、第9章第2節住環境中の空中浮遊微粒子と主要浮遊カビ3ページ、第10章第11項第2節環境真菌と気道アレルギー13ページ	テクノシステム	2013年11月	758
237	高島浩介、久米田裕子監修	カビのはなし マイクロな隣人のサイエンス	第1章生活環境にみるカビ7ページ、第4章住のカビ13ページ、第7章カビを防ぐ5ページ、第9章カビとの共生7ページ、コラム13ページ	朝倉書店	2013年9月	153
238	高島浩介監修	カラー図解 カビ苦情・被害管理マニュアル第3巻	解説4ページ	NPO法人カビ相談センター	2013年8月	86

中村 吉伸

	著者名	書名	分担執筆(頁数)	出版社名	発行年月	総頁数
239	藤井秀司、中村吉伸	1. 新材料・新素材シリーズ 元素ブロック高分子-有機-無機ハイブリッド材料の新概念-(中條 善樹 監修)	第2章5節 “有機無機同時析出重合法によるハイブリッド材料の創出”	シーエムシー出版	2016年1月	270
240	中村吉伸	粘着剤、接着剤の最適設計と適用技術	第2章 粘着剤(テープ)の配合・設計と評価 第3節 粘着剤の粘弾性と粘着性発現メカニズム(90-96)	㈱技術情報協会	2014年6月	804
241	中村吉伸	先端エレクトロニクス分野における封止・シーリングの材料設計とプロセス技術	第7章 デバイスとしての封止技術とトラブル対策 第1節 半導体 [1]半導体封止材料における界面のコントロール(497-503)	㈱技術情報協会	2013年8月	748
242	S. Fujii, Y. Nakamura	"Surface Coating of Soft Materials with Conducting Polymer-metal Nanocomposite" in "Applied Surface Chemistry of Nanomaterials"(Editors, J. Pinson & M. M. Chehimi)	Chapter 11(303-318)	Nova Science Publishers, Inc.	2013年6月	361

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<学会発表>

吹田 浩

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
243	山下和子、 <u>アフド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>荒川隆二</u>	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
*244	吹田 浩	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動(ポスター発表)	日本オリエント学会第57回大会	北海道大学	2015年10月
245	Ryosuke Matsushita, Tokihisa Higo, <u>Hiroshi Suita</u> , Yoshihiro Yasumuro	On-site AR Interface with Web-based 3D Archiving System for Archaeological Project	IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality 2015 (ISMAR2015)	Fukuoka, Japan	2015年9月
246	松下亮介、肥後尚、 <u>吹田 浩</u> 、 <u>安室 喜弘</u>	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月
*247	吹田 浩	関西大学国際文化財・文化研究センターの活動(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月
248	<u>吹田 浩</u> 、 <u>アフド・シュエイブ</u> 、 <u>アデル・アカリシュ</u> 、 <u>沢田正昭</u> 、 <u>西浦忠輝</u> 、 <u>吹田真里子</u>	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月
249	山下和子、 <u>アフド・シュエイブ</u> 、 <u>川崎英也</u> 、 <u>吹田 浩</u> 、 <u>荒川隆二</u>	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月
250	松下亮介、 <u>安室喜弘</u> 、 <u>吹田浩</u> 、 <u>肥後尚</u>	考古学プロジェクトにおけるデジタルアーカイブのための3DWebポータル	情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	東京	2014年12月
251	Ryosuke Matsushita, Yoshihiro Yasumuro, <u>Hiroshi Suita</u>	Digital Archive System with 3D Web Portal Interface	The 5th International Euro-Mediterranean Conference (EuroMed 2014)	Limasol, Cyprus	2014年11月
252	<u>Hiroshi SUITA</u> , Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
253	ShunsukeFukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Abel Akarish, HideyaKawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center (ボルチモア)	2014年6月
*254	吹田 浩	エジプト文明の壁画を保存する	文化財を伝えるー日本の保存技術が古代エジプト文明の秘法を救う	国立民族学博物館 講堂(大阪)	2013年12月
255	廣池晋治、涌田恭兵、坂元仁、アフメド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、久米田裕子、高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月

森 貴史

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
256	森 貴史	ドイツのエジプト博物館(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

中澤 務

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
257	中澤務	古代文明に対するイメージ形成と文化財保護	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月
258	中澤務	プロタゴラスの相対主義再考	関西哲学会	大阪	2013年10月

浜本 隆志

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
259	浜本隆志	古代エジプトの「シンデレラ民話」の世界伝播(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

柏木 治

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
260	柏木治	エジプト黄道帯星座図と19世紀初期のフランス文化(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
261	柏木治	「産業家」と考える階級について	日本スタンダード研究会	京都大学	2013年12月

伊藤 淳志

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
262	伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業 ー母岩の強化ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
263	西形達明、伊藤淳志	イドウト地下埋葬室母岩の安定性と修 復対策(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国 際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ～I・RA・KA～	2015年8月
264	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、伊藤 淳志、西形達明、藤田晴 啓、森井順之、荒木良 祐、荒木祐一郎、カルロ ス・カノー、フェルナンド・ アステテ、ピエダッド・ チャンピ、グラディス・ フェリパリマテ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 ー「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復 方針ー	文化財保存修復学会第37回 大会	京都市	2015年6月
265	伊藤淳志、西形達明	地震で崩壊？遺構の構造耐力を探る	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学千里山 キャンパス 国士舘大学	2015年2月
266	Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, Yoshihiro Yasumuro, Taisuke Ishigaki, Tatsuaki Nishigata, Masataka Imura	3D-Scan Planning of Outdoor Constructions Based on Structure from Motion and Mathematical Optimization	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月
*267	Ito, A., Nishigata, T.	Reinforcement of Mother Rock in Idout Tomb, Egypt	International Symposium on Conservation of Acient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang	2014年10月
268	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、西形 達明、藤田晴啓、森井順 之、海老澤孝雄、大西良 英、フェルナンド・アステ テ、チャンピ・モンテロ ソ、カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 [Ⅲ] ー太陽の神殿の劣化と保存修復に関す る調査研究ー	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
269	西浦忠輝、藤田晴啓、 小野勇、海老澤孝雄、 伊藤淳志、柴田英明、 沢田正昭、カルロス・カ ノー、フェルナンド・アステ テ、チャンピ・モンテ ロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 [Ⅱ] ー太陽の神殿の劣化と保存修復に関す る調査および実験施工ー	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

西形 達明

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
270	伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業 ー母岩の強化ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
271	西形達明、伊藤淳志	イドウト地下埋葬室母岩の安定性と修 復対策(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国 際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ～I・RA・KA～	2015年8月
272	安室喜弘、北田祐平、 松下亮介、檀 寛成、 西形 達明	文化財の3次元計測計画手法 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国 際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ～I・RA・KA～	2015年8月
273	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、伊藤 淳志、西形達明、藤田晴 啓、森井順之、荒木良 祐、荒木祐一郎、カルロ ス・カノー、フェルナンド・ アステテ、ピエダッド・ チャンピ、グラディス・ フェリバリマチ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 ー「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復 方針ー	文化財保存修復学会第37回 大会	京都市	2015年6月
274	伊藤淳志、西形達明	地震で崩壊？遺構の構造耐力を探る	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学千里山 キャンパス 国士舘大学	2015年2月
275	Ito, A., Nishigata, T.	Reinforcement of Mother Rock in Idout Tomb, Egypt	International Symposium on Conservation of Acient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang	2014年10月
276	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成、西形達明、石 垣泰輔、井村誠孝	SfMに基づいた屋外レーザスキャンの最 適計画	土木情報学シンポジウム	東京	2014年9月
277	小野勇、西浦忠輝、 柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復 ーIIー	第49回地盤工学研究発表会	北九州市	2014年7月
278	西浦忠輝、沢田正昭、 岡田保良、柴田英明、 小野勇、伊藤淳志、西形 達明、藤田晴啓、森井順 之、海老澤孝雄、大西良 英、フェルナンド・アステ テ、チャンピ・モンテロ ン、カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 [II] ー太陽の神殿の劣化と保存修復に関す る調査研究ー	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

土戸 哲明

	発表者名	発表課題名	学会名	開催地	発表年月
*279	原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対する放射線照射の抑制効 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
280	高橋淳子、村松芳多子、太田利子、土戸哲明、高島浩介	器物におけるカビの発育に関する研究 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
281	高島美奈子、富坂恭子、田中志乃、常盤俊之、水卜慶子、久米田裕子、高橋淳子、土戸哲明、高島浩介	カビ検査技術に関する相談内容とその対応(2014年-2015年)	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
282	土戸哲明	21世紀市民社会と防菌防霉学会—創立40周年記念出版書の目指すもの	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
283	土戸哲明	加熱殺菌	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*284	原田真美、堀切茂俊、坂元仁、福永健治、土戸哲明、古田雅一	カビ胞子の熱死滅評価へのマイクロプレートリーダーによる発育遅延解析法の適用性	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*285	堀切茂俊、原田真美、坂元仁、土戸哲明、古田雅一	カビの同調発芽条件の検討と耐熱性の評価	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
*286	廣池晋治、原田真美、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルコール異性体の抗カビ作用の比較	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
287	土戸哲明	微生物栄養細胞の損傷菌数評価のための、平板法と発育遅延解析法を併用した「固液発育活性差分法」とその理論	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
288	岩田吏世、坂元仁、中村一郎、土戸哲明、古田雅一	平板法と発育遅延解析法を併用した「固液発育活性差分法」による細菌の損傷菌数評価とその加熱損傷への応用	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
289	原田真美、廣池晋治、坂元仁、古田雅一、高島浩介、土戸哲明	文化財汚染微生物胞子に対するAlkanolと放射線照射の抑制効果(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
290	高島浩介、久米田祐子、古田雅一、土戸哲明	文化財施設にみる空中カビとその生物特性(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～	2015年8月
291	水ト慶子、三木幹男、土戸哲明、久米田裕子、高橋淳子、高島浩介	「かびと生活」に関するアンケート結果から	日本防菌防霉学会第41回年次大会	東京	2014年9月
292	清水亨、李憲俊、土戸哲明、久米田裕子、高島浩介	室内環境の浮遊微生物測定に関する培養条件の検討	日本防菌防霉学会第41回年次大会	東京	2014年9月
*293	廣池晋治、涌田恭兵、坂元仁、アフド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、久米田裕子、高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	韓国	2013年9月
294	高島浩介、久米田裕子、土戸哲明	文化財のカビによるバイオフィルム (Biofilm Formed by Fungi on Cultural Heritage)	2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	韓国	2013年9月
295	Takada, A., Hiroike, S., Sakamoto, J., Tsuchido, T. and L. - K. Chang	Fungicidal Activity of Permaleic Acid (Poster)	8th Int. Symp. Sci. Technol.	大阪	2013年8月

荒川 隆一

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
296	山下和子、アフド・シュエイブ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学国際文化財・文化研究センター国際シンポジウム	関西大学千里山キャンパス	2016年2月
297	山下和子、アフド・シュエイブ、川崎英也、吹田浩、荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～	2015年8月
*298	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeb, Abel Akaish, HideyaKawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center (ボルチモア)	2014年6月
299	稲本正、佐藤博文、川野真太郎、静間基博、小野大助、川崎英也、荒川隆一	MALDI-MS、LC/ESIMSおよびLC/ELSDを用いたポリエチレングリコールの分析	第62回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキスポパーク (吹田市)	2014年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
300	杉山知徳、川崎英也、 荒川隆一	シングルサイズのヒドロキシ酸保護銅 ナノ粒子の合成	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうば くキャンパス (京都市)	2014年5月
301	小澤智行、川崎英也、 荒川隆一	Pt蒸着支援脱離イオン化を用いた葉お よびポリマー表面のMSイメージング 解析	第61回質量分析総合討論会	つくば国際会議場 エポカルつくば (つくば市)	2013年9月
302	Atsushi Yamamoto, Shusuke Takemine, Daisuke Ono, Hideya Kawasaki, Ryuichi Arakawa	Structural Identification of Chemical Components and Biodegradation Products of Highly Fluorinated Products Using (Two-dimensional) Liquid Chromatograph and High- resolution Mass Spectrometer	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center (タイペイ)	2013年7月1日
303	K.Nakaiaa,H.Kawasa ki,R.Arakawa,E.K.Ath anassioub,R.N.Grass b and W.J.Starkb	Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles as the Matrix and Magnetic Separation for Highly Efficient SALDI-MS Analysis	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center (タイペイ)	2013年7月

川崎 英也

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
304	山下和子、 アブド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラ布に残存する有機化合物のガスク ロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
305	山下和子、 アブド・シュエイブ、 川崎英也、 吹田 浩、荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量 分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国 際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 壺 ~I・RA・KA~	2015年8月
306	川崎英也、吉本純也、 Arunee Sangsuwan, 岩崎泰彦、山下和子、 大坂一生、荒川隆一	リン脂質類似分子保護金4量体及び25量 体クラスターのサイズ選択的合成	ナノ学会第13回大会	宮城県仙台市	2015年6月
307	ShunsukeFukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Abel Akanish, HideyaKawasaki, Hiroshi Suita, Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI- MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tomb	62th ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics	Baltimore Convention Center (ボルチモア)	2014年6月
308	稲本正、佐藤博文、川 野真太郎、静間基博、 小野大助、川崎英也、 荒川隆一	MALDI-MS、LC/ESIMSおよび LC/ELSDを用いたポリエチレングリ コールの分析	第62回質量分析総合討論会	ホテル阪急エキス ポパーク (吹田市)	2014年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
309	杉山知徳、川崎英也、 荒川隆二	シングルサイズの水酸化銅保護銅 ナノ粒子の合成	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうば くキャンパス (京都市)	2014年5月
310	栗田匡拓、川崎英也、 荒川隆二	SERS/SALDI連携分析のための銀ナノ 粒子担持コンパクトディスク基板	ナノ学会第12回大会	京都大学 おうば くキャンパス (京都市)	2014年5月
311	小澤智行、川崎英也、 荒川隆二	Pt蒸着支援脱離イオン化を用いた葉お よびポリマー表面のMSイメージング 解析	第61回質量分析総合討論会	つくば国際会議場 エポカルつくば (つくば市)	2013年9月
312	Atsushi Yamamoto, Shusuke Takemine, Daisuke Ono, Hideya Kawasaki, Ryuichi Arakawa	Structural Identification of Chemical Components and Biodegradation Products of Highly Fluorinated Products Using (Two-dimensional) Liquid Chromatograph and High- resolution Mass Spectrometer	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center (タイペイ)	2013年7月
313	K.Nakaiaa,H.Kawasa ki,R.Arakawa,E.K.Ath anassioub,R.N.Grass b and W.J.Starkb	Functionalized Graphene-coated Cobalt Nanoparticles as the Matrix and Magnetic Separation for Highly Efficient SALDI-MS Analysis	AOMSC(the 4th Asia Oceania Mass Spectrometry Conference)	Taipei International Convention Center (タイペイ)	2013年7月

岡 絵理子

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
314	岡 絵理子	臨遺跡集落・サッカラ村の生活と空間構 造(その5)―サッカラ村居住者の遺跡や 村への認識の 実態(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学	2016年2月

安室 喜弘

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
315	藤里 和樹、北田 祐 平、松下 亮介、檀寛 成、安室 喜弘	レーザスキャナとSFMの併用による統合 的3次元記録手法	情報処理学会 第78回全国大会	横浜	2016年3月
316	安室喜弘	サッカラにおける修復のためのデジタル・ アーカイブ	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
317	北田 祐平、安室 喜弘、 檀 寛成	SFMとMVSに基づいた現場のモデル化に よるレーザスキャン計画とその運用方法	土木情報学シンポジウム	東京	2015年10月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
318	Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, <u>Yoshihiro Yasumuro</u>	Optimization Scenario for 3D-Scanning Plans of Outdoor Constructions Based on SFM	15th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality in Construction (CONVR2015)	Banff, Alberta, Canada	2015年10月
319	Hiroki Inoue, <u>Yoshihiro Yasumuro</u> , Hiroshige Dan, Akira Kobayashi	Deflection Computation of Pipeline Surface Based on 3D Point Cloud	15th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality in Construction (CONVR2015)	Banff, Alberta, Canada	2015年10月
320	Ryosuke Matsushita, Tokihisa Higo, <u>Hiroshi Suita</u> , <u>Yoshihiro Yasumuro</u>	On-site AR Interface with Web-based 3D Archiving System for Archaeological Project	IEEE International Symposium on Mixed and Augmented Reality 2015 (ISMAR2015)	Fukuoka, Japan	2015年9月
321	松下亮介、肥後時尚、 吹田 浩、安室 喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月
322	安室喜弘、北田祐平、 松下亮介、檀 寛成、 <u>西形達明</u>	文化財の3次元計測計画手法 (ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 薈～I・RA・KA～	2015年8月
*323	<u>Yoshihiro Yasumuro</u> , Hiroshige Dan	Web-Based 3D Barrier-free Verification for Wheelchair Access	2nd International Conference on Civil and Building Engineering Infomatics (ICCBEI2015)	東京	2015年4月
324	安室 喜弘	エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について	日本情報考古学会大会	大阪	2015年3月
325	松下亮介、 <u>安室喜弘</u> 、 吹田浩、肥後時尚	考古学プロジェクトにおけるデジタルアーカイブのための3DWebポータル	情報処理学会 人文科学とコンピュータシンポジウム (じんもんこん2014)	東京	2014年12月
*326	Hiroki Inoue, Hiroshige Dan, Akira Kobayashi, <u>Yoshihiro Yasumuro</u>	Inner Surface Measurement with RGB-D Camera Using Multiple Light Markers	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月
*327	Yuhei Kitada, Hiroshige Dan, <u>Yoshihiro Yasumuro</u> , Taisuke Ishigaki, <u>Tatsuaki Nishigata</u> , Masataka Imura	3D-Scan Planning of Outdoor Constructions Based on Structure from Motion and Mathematical Optimization	14th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality (CONVR2014)	Sharjah, UAE	2014年11月
328	Ryosuke Matsushita, <u>Yoshihiro Yasumuro</u> , <u>Hiroshi Suita</u>	Digital Archive System with 3D Web Portal Interface	The 5th International Euro-Mediterranean Conference (EuroMed 2014)	Limasol, Cyprus	2014年11月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*329	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
330	北田祐平、安室喜弘、 檀寛成、西形達明、石 垣泰輔、井村誠孝	SfMに基づいた屋外レーザスキャンの最 適計画	土木情報学シンポジウム	東京	2014年9月
331	安室喜弘	現場の形状スキャニングとシミュレーショ ンへの活用アプローチ	第47回不連続性岩盤解析 実用化研究会	京都	2014年1月
332	Yoshihiro Yasumuro	A Server-client System for Optimized Planning of Outdoor 3D Laser Scanning	Conference Proceedings -The 9th International Symposium on Social Management Systems (SSMS2013)	Sydney, Australia	2013年12月
333	Yoshihiro Yasumuro	Inner Surface Measurement with RGB-D Camera for Pipeline Assessment	Proceedings of the First International Conference on Civil and Building Engineering Informatics (ICCBEI2013)	Tokyo	2013年11月
334	Yoshihiro Yasumuro	A Practical Scan Planning for Shape Measurement of Outdoor Constructions	Proceedings of the First International Conference on Civil and Building Engineering Informatics (ICCBEI2013)	Tokyo	2013年11月
335	Yoshihiro Yasumuro	3D-scan Planning of Outdoor Constructions Based on Photogrammetric Model and Mathematical Optimization	Proceedings of the 13th International Conference on Construction Applications of Virtual Reality 2013 (CONVR2013)	London, UK	2013年10月
336	Yoshihiro Yasumuro	3D Reconstruction of the "Cave" of the Great Pyramid from Video Footage	Proceedings of DigitalHeritage 2013, International Congress	Marseille, France	2013年10月
337	Yoshihiro Yasumuro	Coil Positioning System for Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation Treatment by ToF Camera Ego-Motion	35th Annual International Conference of the IEEE EMBS	Osaka	2013年7月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

鶴田 浩章

	発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表年月
338	伊藤淳志、西形達明、 鶴田浩章、中村吉伸	イドウトの地下埋葬室での保全作業 —母岩の強化—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
339	平井孝明、鶴田浩章、 高橋智幸、徳重英信、 上田尚史、竹田眞義	サンゴ再生に用いるモルタル基盤の電気 抵抗性の評価に関する基礎的研究	平成27年度土木学会全国大会 第70回年次学術講演会	岡山大学	2015年9月
340	平井孝明、竹田眞義、 鶴田浩章、高橋智幸、 徳重英信、上田尚史	サンゴ再生に用いるモルタル基盤の電気 抵抗性の評価	平成27年度土木学会関西支部 年次学術講演会	摂南大学	2015年5月
341	島川和之、鶴田浩章、 上田尚史、中嶋亮介	けい酸塩系塗布後に塩分が浸透した供 試体へのシラン系塗布の影響	平成26年度土木学会全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
342	竹本裕樹、鶴田浩章、 上田尚史	細骨材の一部に置換した下水汚泥焼却 灰の種類によるコンクリートの凝結性状 への影響	平成26年度土木学会全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
343	平井孝明、鶴田浩章、 上田尚史、安藤圭	増粘剤—液型SPを用いた中流動コンク リートの乾燥収縮特性と表面性状評価	平成26年度土木学会全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
344	児玉圭、上田尚史、 鶴田浩章	せん断補強鉄筋を有するRCはりのせん 断破壊メカニズムの評価に関する実験的 研究	平成26年度土木学会全国大会 第69回年次学術講演会	大阪大学	2014年9月
345	藤井勇希、村上真、 竹内勝俊、鶴田浩章、 上田尚史、安藤圭	中流動コンクリートの塩化物イオン浸 透とすりへりに対する抵抗性評価	平成26年度土木学会関西支部 年次学術講演会	大阪産業大学	2014年5月
346	平井孝明、村上真、 鶴田浩章、上田尚史、 安藤圭	増粘剤—液型SPを用いた中流動コンク リートの収縮ひび割れ対策と表面性状評 価	平成26年度土木学会関西支部 年次学術講演会	大阪産業大学	2014年5月
347	鶴田浩章、子田康弘、 岩城一郎	震災がれき焼却残さの性質とセメント硬 化体の物性及び環境への影響	第3回コンクリート技術大会	郡山市	2013年10月
348	中嶋亮介、鶴田浩章、 島川和之	表面含浸材の併用における塗布間隔の 変化が及ぼす中性化・塩害抑制効果	土木学会第68回年次学術 講演会	日本大学生産工学 部津田沼キャンパ ス	2013年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
349	藤井勇希、鶴田浩章、 松嶋秀記	護岸構造物への増粘剤系中流動コンクリートの適用に関する検討	土木学会第68回年次学術講演会	日本大学生産工学部津田沼キャンパス	2013年9月
350	村上真、岩本永斗、 鶴田浩章	フレア型護岸に適用する増粘剤一液型高性能AE減水剤を使用した中流動コンクリート	土木学会第68回年次学術講演会	日本大学生産工学部津田沼キャンパス	2013年9月
351	H.TSURUTA,R.NAKA JIMA	Study on the Effects of Combining Silicate and Silane Type Surface Penetrants on Concrete under Different Water Content Conditions	Proceedings of the 8th International Symposium in Science and Technology at Kansai University 2013	Kansai University	2013年8月
352	戸井干輝、木野村宏昭、 鶴田浩章、堂垣正博	RC橋脚の余裕度による耐震性能評価	平成25年度土木学会関西支部年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
353	中嶋亮介、鶴田浩章、 島川和之	表面含浸材の併用における塗布割合の変化が及ぼす塩害抑制効果への影響	平成25年度土木学会関西支部年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
354	村上真、岩本永斗、 鶴田浩章	増粘剤一液型高性能AE減水剤を使用した中流動コンクリートの諸性状	平成25年度土木学会関西支部年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月
355	島川和之、鶴田浩章、 中嶋亮介	表面含浸材の併用における塗布割合の変化が及ぼす遮水性と中性化抑制効果への影響	平成25年度土木学会関西支部年次学術講演会	大阪市立大学	2013年6月

アフメド・サイエド・アフメド・シュエイブ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
356	アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ	サッカー地域の壁画群 — イドゥートの事例にみる問題とその解決 —	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
357	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、吹田浩、 荒川隆一	ミイラ布に残存する有機化合物のガスクロマトグラフィー質量分析(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
358	吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリッシュ、 沢田正昭、西浦忠輝、 吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
359	山下和子、 アフメド・シュエイブ、 川崎英也、 吹田 浩、荒川隆一	ミイラの布に含まれる有機化合物の質量 分析(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国 際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月
360	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the Wall Paintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014
361	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI- MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-Year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tom	62nd ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics.	Baltimore, maryland.	June15-19, 2014
*362	Hiroshi Suita, Ahmed S. A. Shoeib, Adel M. I. Akarish, Masaaki Sawada, Tadateru Nishiura, Ewa Roznerska, Yoshihiro Yasumuro, Ryosuke Matsushita	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt.	Dunhuang Forum : International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road	Dunhuang, China	7-11,October 2014
363	廣池晋治、涌田恭兵、 坂元仁、アフメド・シュ エイブ、吹田真里子、 吹田浩、久米田裕子、 高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育 に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
364	アフメド・シュエイブ アーデル・アカリッシュ	サッカラ地域の壁画群 ーイドウトの事例にみる問題とその解 決ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
365	吹田 浩、 アフメド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 沢田正昭、西浦忠輝、 吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁 画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ~I・RA・KA~	2015年8月
*366	Hiroshi Suita, Ahmed S. A. Shoeib, Adel M. I. Akarish, Masaaki Sawada, Tadateru Nishiura, Ewa Roznerska, Yoshihiro Yasumuro, Ryosuke Matsushita	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt.	Dunhuang Forum : International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road	Dunhuang, China	7-11,October 2014
367	Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, Ahmed Sayed Shoeib, Adel Akarish, Hideya Kawasaki, Hiroshi Suita , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization of Degradate Animal Glue in the WallPpaintings of the Idout Tomb	31st Meeting of JSSSCP "Japan Society for Scientific Studies on Cultural Properties"	Nara, Japan	June 4 -6, 2014

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
368 Shunsuke Fukakusa, Kazuki Kawahara, <u>Ahmed Sayed Shoeib</u> , Adel Akarish, Hideya <u>Kawasaki, Hiroshi Suita</u> , Ryuichi Arakawa, Takashi Nakazawa	Characterization by Nano-LC/ESI-MS/MS of Highly Degraded Collagen Detected in 4,400-Year-old Egyptian Wall Paintings of the Idout Tom	62nd ASMS Conference on Mass Spectrometry and Allied Topics.	Baltimore, Maryland.	June15-19, 2014
*369 Adel I. M. Akarish	Characterization of Some Inorganic Pigments and Plasters Used in Old Kingdom, Saqqara area, Egypt	2nd Symposium of the Grand Museum Conservation Center	GEM-CC, Cairo.	18-19 March, 2013

サラハ・エル・ホーリ

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*370 Salah el-Kholy	Die Sammlungen in den Museen der Universität Cairo aus der Ausgrabungen von Sami Gabra in Tuna el Gebel.	Die ferne Welt	Munich, Germany	19- 21 Januar.2014
371 Salah el-Kholy	The Excavation of the Cairo University in the site Tuna el Gebel	Excavation activities of the Cairo Uni.	Cairo	April 2013.

エヴァ・ロズネルスカ

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
372 Hiroshi SUITA, Ahmed S. A., <u>SHOEIB, Adel M. I.</u> , <u>AKARISH, Masaaki</u> , <u>SAWADA, Tadateru</u> , <u>NISHIURA, Ewa</u> , <u>ROZNEKSKA, Yoshihiro</u> , <u>YASUMURO, Ryosuke</u> , MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月

ラファオ・ロマン・クーン

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
373 ラファオ・ロマン・クーン	ポーランドの壁画	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

西浦 忠輝

発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
374 西浦忠輝	アユタヤ遺跡における大洪水対策 (ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*375	吹田 浩、 アフマド・シュエイブ、 アーデル・アカリシュ、 沢田正昭、西浦忠輝、 吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁 画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存 国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際 フォーラム 麓 ～I・RA・KA～	2015年8月
376	西浦忠輝	大洪水後のアユタヤ遺跡の保存と今後の 対策	日本文化財科学会第32回大会	東京都	2015年7月
377	松本健、西浦忠輝、 小野勇	ローマ時代の円形劇場修復の研究	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月
378	西浦忠輝、岡田保良、 柴田英明、小野勇、伊藤 淳志、西形達明、藤田晴 啓、森井順之、荒木良 祐、荒木祐一郎、カルロ ス・カノー、フェルナンド・ アステテ、ピエダッド・ チャンピ、グラディス・ フェリパリマチ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復 —「太陽の神殿」の劣化原因と保存修復 方針—	文化財保存修復学会 第37回大会	京都市	2015年6月
379	西浦忠輝	太陽の神殿の保存修復に向けて —共同研究プロジェクトの成果—	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2015年3月
380	西浦忠輝	太陽の神殿の保存修復に向けて —共同研究プロジェクトの成果—	関西大学国際文化財文化 研究センター・国士舘大学共催 公開シンポジウム	国士舘大学	2015年2月
381	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
382	T.Nishiura, H.Shibata, I.Ono, M.Sawada, H.Fujita, M.Mori, et al.	Conservation of Machu-Picchu Archaeological Site —Investigation and Experimental Restoration Works of "Temple of the Sun"—	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road in 2014	Dunhuang, China	2014年10月
383	小野勇、西浦忠輝、 柴田英明、西形達明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復 — II —	第49回地盤工学研究発表会	北九州市	2014年7月
384	西浦忠輝、宋苑瑞、齋 藤俊介、アンドラス・モ ルゴス	石材強化保存材料としてのナノライムの 物性評価〔Ⅱ〕 -試験片による実験的研究(2)	日本文化財科学会第31回大会	奈良市	2014年7月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
385	西浦忠輝、沢田正昭、岡田保良、柴田英明、小野勇、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、海老澤孝雄、大西良英、フェルナンド・アステテ、チャンピ・モンテロソ、カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅲ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
386	松本健、小野勇、西浦忠輝	ローマ時代のモザイク床の修復	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
387	小野勇、松本健、西浦忠輝	古代ローマ遺跡の列柱道路の保存修復に関する研究〔Ⅵ〕—実際の保存修復作業(4)—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
388	西浦忠輝、齋藤俊介、宋苑瑞、アンドラス・モルゴス	石材強化保存材料としてのナノライムの物性評価〔Ⅰ〕 -試験片による実験的研究(1)	日本文化財科学会 第30回大会	弘前市	2013年7月
389	西浦忠輝、藤田晴啓、小野勇、海老澤孝雄、伊藤淳志、柴田英明、沢田正昭、カルロス・カノー、フェルナンド・アステテ、チャンピ・モンテロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅱ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査および実験施工—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月
390	小野勇、松本健、西浦忠輝	古代ローマ遺跡の列柱道路の保存修復に関する研究〔Ⅴ〕—実際の保存修復作業(3)—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月
391	小野勇、西浦忠輝、柴田英明	マチュピチュ遺跡「太陽の神殿」保存修復	第48回地盤工学研究発表会	富山市	2013年7月

沢田 正昭

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
392	吹田 浩、 <u>アフド・シュエイブ</u> 、 <u>アーデル・アカリシュ</u> 、 <u>沢田正昭</u> 、 <u>西浦忠輝</u> 、 <u>吹田真里子</u>	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 壺 ~I・RA・KA~	2015年8月
393	Hiroshi SUITA, Ahmed S. A. SHOEIB, Adel M. I. AKARISH, Masaaki SAWADA, Tadateru NISHIURA, Ewa ROZNIERSKA, Yoshihiro YASUMURO, Ryosuke MATSUSHITA	Conservation Works of Idout's Tomb (2,360 B.C.) in Saqqara, Egypt	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road 2014	Dunhuang, China	2014年10月
394	T.Nishiura, H.Shibata, I.Ono, M.Sawada, H.Fujita, M.Mori, et al.	Conservation of Machu-Picchu Archaeological Site —Investigation and Experimental Restoration Works of "Temple of the Sun"—	International Symposium on Conservation of Ancient Sites on the Silk Road in 2014	Dunhuang, China	2014年10月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表年月
395 西浦忠輝、沢田正昭、岡田保良、柴田英明、小野勇、伊藤淳志、西形達明、藤田晴啓、森井順之、海老澤孝雄、大西良英、フェルナンド・アステテ、チャンピ・モンテロソ、カルロス・カノー	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅲ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査研究—	文化財保存修復学会 第36回大会	東京都	2014年6月
396 西浦忠輝、藤田晴啓、小野勇、海老澤孝雄、伊藤淳志、柴田英明、沢田正昭、カルロス・カノー、フェルナンド・アステテ、チャンピ・モンテロソ	ペルー、マチュピチュ遺跡の保存修復〔Ⅱ〕 —太陽の神殿の劣化と保存修復に関する調査および実験施工—	文化財保存修復学会 第35回大会	仙台市	2013年7月

高鳥 浩介

発表者名	発表タイトル	学会名	開催地	発表年月
397 原田真美、坂元仁、古田雅一、高鳥浩介、土戸哲明	文化財汚染にみられる好乾性および耐乾性カビ胞子に対する放射線照射の抑制効果(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
398 高橋淳子、村松芳多子、太田利子、土戸哲明、高鳥浩介	器物におけるカビの発育に関する研究(ポスター発表)	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
399 高鳥美奈子、富坂恭子、田中詠乃、常盤俊之、水卜慶子、久米田裕子、高橋淳子、土戸哲明、高鳥浩介	カビ検査技術に関する相談内容とその対応(2014年-2015年)	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
400 米津彰人、松岡由衣、岩井美和、関智子、後藤友美、佐伯憲子、北井智、東脇和美、高鳥浩介	カビの種別にみた発育と酸素消費の関係	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
401 廣池晋治、原田真美、坂元仁、古田雅一、高鳥浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルコール異性体の抗カビ作用の比較	日本防菌防霉学会 第42回年次大会	大阪	2015年9月
402 原田真美、廣池晋治、坂元仁、古田雅一、高鳥浩介、土戸哲明	文化財汚染微生物に対するAlkanolと放射線照射の抑制効果	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 壺 ~I・RA・KA~	2015年8月
403 高鳥浩介、久米田裕子、古田雅一、土戸哲明	文化財施設にみる空中カビとその生物特性	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 壺 ~I・RA・KA~	2015年8月
404 田中詩乃、太田利子、高橋淳子、高鳥美奈子、高鳥浩介	植物病原性カビに対する保存料の有効性	日本防菌防霉学会 第41回年次大会	東京	2014年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
405	高鳥浩介	カビを知る-マクロとミクロの視点から	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
406	高鳥美奈子、久米田裕子、吉川佳奈、吉川博幸、高鳥浩介	図書館で被害を受けた書籍からのカビ分離法と原因カビ	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
407	常盤俊之、柳田連太郎、田中詩乃、太田利子、高橋淳子、高鳥美奈子、高鳥浩介	カビ発育からみた寒天培地への基質侵入性	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
408	清水亨、李憲俊、土戸哲明、久米田裕子、高鳥浩介	室内環境の浮遊微生物測定に関する培養条件の検討	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
409	稲田知佳、高鳥美奈子、久米田裕子、松村芳多子、太田利子、高鳥浩介	ハイイロカビBotrytisの季節特異性	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
410	水ト慶子、三木幹男、土戸哲明、久米田裕子、高橋淳子、高鳥浩介	「かびと生活」に関するアンケート結果から	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
411	廣池晋治、原田真美、坂元仁、久米田裕子、高鳥浩介、土戸哲明	寒天平板におけるアルコール異性体の抗カビ作用の比較	日本防菌防黴学会 第41回年次大会	東京	2014年9月
412	李憲俊、小菅旬子、高鳥浩介	シリコンシーラントにおけるCladosporiumの汚染形態	日本防菌防黴学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
413	太田利子、田中詩乃、高鳥美奈子、高鳥浩介	保存料の各種真菌に対する有効性評価について	日本防菌防黴学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
414	清水亨、富坂恭子、高鳥美奈子、常盤俊之、高鳥浩介、李憲俊、村松芳多子、太田利子、高橋淳子、久米田裕子	梅雨に特異的な無胞子性カビMyceliaの生物学的特性	日本防菌防黴学会 第40回年次大会	大阪	2013年9月
415	高鳥浩介、久米田裕子、土戸哲明	文化財のカビによるバイオフィルム (Biofilm Formed by Fungi on Cultural Heritage)	2013 東アジア文化遺産保存 国際シンポジウム	韓国	2013年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
416	廣池晋治、涌田恭兵、坂元仁、アブド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、久米田裕子、高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	韓国	2013年9月
417	高橋淳子、太田利子、高島浩介	感受性真菌、抵抗性真菌に対する保存料の有効性評価について	日本食品化学学会・第19回総会学術大会	名古屋	2013年8月

中村 吉伸

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
418	高倉和希、嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸曳き挙動とピール特性の関連	第9回若手シンポジウム研究発表会	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2016年3月
419	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	弾性率の異なるアクリル架橋系粘着剤のタック特性	第9回若手シンポジウム研究発表会	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2016年3月
420	伊藤淳志、西形達明、鶴田浩章、中村吉伸	イドゥートの地下埋葬室での保全作業—母岩の強化—	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
421	高倉和希、嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度におよぼす剥離速度の影響	第11回 日本接着学会関西支部若手の会(主催:一般社団法人 日本接着学会)	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2015年11月
422	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-シルセスキオキサン元素ブロック高分子微粒子の合成	第11回 日本接着学会関西支部若手の会(主催:一般社団法人 日本接着学会)	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2015年11月
423	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	架橋度を变化させたアクリル架橋系粘着剤の力学特性とタック特性	第11回 日本接着学会関西支部若手の会(主催:一般社団法人 日本接着学会)	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2015年11月
424	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	2Dコロイド粒子配列体の応力変形を利用した非球状高分子微粒子の創出	第11回日本接着学会若手の会(主催:公益社団法人日本接着学会関西支部)	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2015年11月
425	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす凝集力の影響	第11回日本接着学会若手の会(主催:公益社団法人日本接着学会関西支部)	兵庫県立大学 姫路書写キャンパス 姫路市	2015年11月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
426	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブロック高分子微粒子の合成	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所三条工場内本館セミナーホール京都市	2015年11月
427	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着の弾性率がタックに与える影響	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所三条工場内本館セミナーホール京都市	2015年11月
428	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	2Dコロイド粒子配列体の応力変形を利用した非球状高分子微粒子の合成	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所三条工場内本館セミナーホール京都市	2015年11月
429	嘉流望、野田昌代、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤層厚さと凝集力がアクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす影響	第16回高分子表面研究討論会	(株)島津製作所三条工場内本館セミナーホール京都市	2015年11月
430	高倉和希、嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着のピール強度と糸曳き挙動の速度依存性	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
431	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤の力学特性から見たタック特性	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
432	嘉流望、下嶋康平、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の粘着剤層厚さがタック特性におよぼす影響	第36回粘着技術研究会	すみだ産業会館	2015年10月
433	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着の架橋度が力学特性とタックにおよぼす影響	第65回ネットワークポリマー講演討論会	新潟大学(五十嵐キャンパス 中央図書館 ライブラリーホール)	2015年10月
434	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす粘着剤層厚さの影響	第65回ネットワークポリマー講演討論会	新潟大学(五十嵐キャンパス 中央図書館 ライブラリーホール)	2015年10月
435	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブロック高分子粒子の創出	第66回コロイドおよび界面化学討論会(主催:公益社団法人日本化学会コロイドおよび界面化学部会)	鹿児島大学群元キャンパス 鹿児島市	2015年9月
436	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	2次元コロイド粒子配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の創出	第66回コロイドおよび界面化学討論会(主催:公益社団法人日本化学会コロイドおよび界面化学部会)	鹿児島大学群元キャンパス 鹿児島市	2015年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
437	中村吉伸、嘉流望、野田昌代、豊川翔、藤井秀司	ポリマー接着剤による脆弱な壁の補修に関する基礎研究(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 麓～I・RA・KA～	2015年8月
438	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	コロイド結晶の応力変形を利用する異形化ポリスチレン粒子の合成	第33回関西界面科学セミナー(主催:公益社団法人日本化学会コロイドおよび界面化学部会関西支部)	大阪工業大学大阪センター大阪市	2015年7月
439	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	粘着剤層厚さがアクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす影響	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
440	野田昌代、嘉流望、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	力学特性から考察したアクリル架橋系粘着剤のタック	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
441	高倉和希、野田昌代、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性の剥離速度・角度依存性	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
442	中山沙織、中村吉伸、藤井秀司	刺激応答性へアリー高分子微粒子で安定化された泡の構造評価	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
443	西澤伸朗、中村吉伸、藤井秀司	有機高分子-かご状シルセスキオキサン元素ブロック高分子粒子の創出	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
444	福岡敬介、尾崎翔伍、中村吉伸、藤井秀司	コロイド粒子二次元配列体の応力変形を利用する非球状高分子微粒子の創出	第61回高分子研究発表会 主催:公益社団法人高分子学会	兵庫県民会館神戸市	2015年7月
445	嘉流望、野田昌代、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性:粘着剤層厚さおよび温度の影響	第53回日本接着学会年次大会 主催:一般社団法人日本接着学会	愛知工業大学八草キャンパス愛知県	2015年6月
446	野田昌代、高倉和希、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	架橋密度および変形速度がアクリル架橋系粘着剤の力学特性とタック特性におよぼす影響	第53回日本接着学会年次大会 主催:一般社団法人日本接着学会	愛知工業大学八草キャンパス愛知県	2015年6月
447	高倉和希、野田昌代、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール強度の試験速度依存性	第53回日本接着学会年次大会 主催:一般社団法人日本接着学会	愛知工業大学八草キャンパス愛知県	2015年6月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
448	中山沙織、中村吉伸、藤井秀司	pHおよび温度刺激に応答する高分子微粒子安定化泡	第53回日本接着学会年次大会 主催：一般社団法人 日本接着学会	愛知工業大学八草 キャンパス 愛知県	2015年6月
449	藤井秀司、澤田静香、中山沙織、ミハエルカプル、上野和之、下嶋康平、ハンス・ヨーガンブット、中村吉伸	粉体粘着剤	第53回日本接着学会年次大会 主催：一般社団法人 日本接着学会	愛知工業大学八草 キャンパス 愛知県	2015年6月
450	嘉流望、野田昌代、高倉和希、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のタック特性におよぼす粘着剤層厚さと温度の影響	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター 札幌市	2015年5月
451	野田昌代、高倉和希、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の力学特性とタック特性	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター 札幌市	2015年5月
452	高倉和希、野田昌代、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤のピール特性に及ぼす剥離速度および剥離角度の影響	第64回高分子学会年次大会	札幌コンベンション センター 札幌市	2015年5月
453	下嶋康平、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸曳き挙動におよぼす粘着剤層厚さの影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
454	嘉流望、下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタック特性および剥離特性におよぼす影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
455	高倉和希、下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤のピール特性におよぼす速度と分子構造の影響	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
456	野田昌代、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤のタックと力学特性	第35回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2014年10月
457	嘉流望、下嶋康平、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタック特性および剥離特性におよぼす影響	第62回高分子討論会	長崎大学 長崎市	2014年9月
458	下嶋康平、嘉流望、藤井秀司、中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の糸曳き挙動におよぼす粘着剤層厚さの影響	第62回高分子討論会	長崎大学 長崎市	2014年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
459	N.Karyu, K.Shitajima, S.Fujii, Y.Nakamura, Y.Urahama	Contact Time Dependent of Tack for Crosslinked Polyacrylic Pressure- Sensitive Adhesives With Two Different Molecular Structures	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall 奈良市	2014年9月
460	S.Hamasaki, E.J. Wanless, Y. Nakamura, S. Fujii	Polymeric Microcapsules Fabricated from Liquid Marbles	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall 奈良市	2014年9月
461	K. Shitajima, S. Fujii, Y. Nakamura, Y Urahama	Influence of Adhesive Thickness on Stringiness Behaviour for Polyacrylic Pressure-Sensitive Adhesive	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena, 主催: 一 般社団法人日本接着学会)	Nara Prefectural New Public Hall 奈良市	2014年9月
462	H. Takeoka, H. Hamasaki, Y. Nakamura, S. Fujii	Polypyrrole-platinum Nanocomposite Coating on Polystyrene Particles by Chemical Oxidative Seeded Dispersion Polymerization	WCARP-V (5th World Congress on Adhesion and Related Phenomena,	Nara Prefectural New Public Hall 奈良市	2014年9月
463	上野和之、浜崎青、 G. Bournval, E.J.WANLESS、 中村吉伸、藤井秀司	リキッドマーブルのカプセル化および構 造・安定性評価	第65回コロイドおよび 界面化学討論会	東京理科大学 東京都	2014年9月
464	竹岡拓昭、和田倭佳、 遊佐真一、桜井伸一、 藤井秀司、中村吉伸	水系化学酸化分散重合による温度応答 性ポリピロール-パラジウムナノコンポジ ット粒子の創出	第65回コロイドおよび 界面化学討論会	東京理科大学 東京都	2014年9月
465	嘉流望、下嶋康平、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	アクリル架橋系粘着剤の分子構造がタッ ク特性へ与える影響	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2014年7月
466	下嶋康平、嘉流望、 藤井秀司、中村吉伸、 浦濱圭彬	粘着剤層厚さがアクリル架橋系粘着剤の 糸曳き挙動におよぼす影響	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2014年7月
467	中山沙織、浜崎青、 Hans-Jürgen Butt、 藤井秀司、中村吉伸	ヘアリー粒子によって安定化された泡の 安定性・構造評価	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2014年7月
468	竹岡拓昭、和田倭佳、 遊佐真一、桜井伸一、 藤井秀司、中村吉伸	温度応答性ナノコンポジット粒子の創出	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2014年7月
469	上野和之、 Ghislain BOURNVAL, Erica J. WANLESS、中村吉 伸、藤井秀司	高分子微粒子によって安定化されたリ キッドマーブルのカプセル化および安定 性評価	第60回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2014年7月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
470	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤の糸曳き挙動におよぼすネットワーク密度と分子構造の影響	精密ネットワークポリマー研究会 第7回若手シンポジウム	東京工業大学大岡山キャンパス蔵前会館くらまえホール 東京都	2014年3月
471	S.Yusa, K.Nakai, S.Fujii, Y.Nakamura, Y.Iwasaki	Stimuli-responsive Liquid Marbles	5th Asian Conference on Colloid and Interface Science (ACCIS 2013)	University of North Bengal India	2013年11月
472	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	アクリル系粘着剤の糸曳き形状におよぼす分子構造と架橋度の影響	第34回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2013年11月
473	嘉流望、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル粘着剤の密着性におよぼす分子構造の影響	第34回 粘着技術研究会	連合会館 東京都	2013年11月
474	藤井秀司、原松栄次、 中村吉伸、森田裕史	2次元ソフト微粒子配列体の応力変形および数値解析	第64回コロイドおよび界面化学 討論会	名古屋工業大学 (愛知県名古屋市)	2013年9月
475	江口洋介、藤井秀司、 中村吉伸	微粒子安定化エマルション工学	第64回コロイドおよび界面化学 討論会	名古屋工業大学 名古屋市	2013年9月
476	山本祐輔、藤井秀司、 中村吉伸、日笠茂樹、 藤原和子	ポリアクリル酸ブチル-シリカナノコンポジット粒子の創出および新規複合粘着剤への応用	第64回コロイドおよび界面化学 討論会	名古屋工業大学 名古屋市	2013年9月
477	藤井秀司、濱崎博行、 中村吉伸、大高敦、 阿部浩也、山中真也	有機無機同時析出重合法による磁性ナノコンポジット触媒粒子の創出	第62回高分子討論会	金沢大学 角間 キャンパス 金沢市	2013年9月
478	山本祐輔、藤井秀司、 中村吉伸、日笠茂樹、 藤原和子	ナノコンポジット粘着剤の創出・機能評価	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
479	嘉流望、武南行記、 下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	タック特性による架橋型アクリル系粘着剤の濡れ挙動の考察	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
480	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル系粘着剤における縁を有する糸曳き形状の出現	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
481	山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	シランカップリング剤処理層中の物理吸着分子の存在比におよぼす処理条件の影響	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
482	中山沙織、浜崎青、 上野和之、藤井秀司、 中村吉伸	微粒子安定化泡の安定性・構造評価	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
483	竹岡拓昭、濱崎博行、 藤井秀司、中村吉伸	水系化学酸化シード分散重合によるナノコンポジット被覆高分子微粒子の創出	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
484	江口洋介、藤井秀司、 中村吉伸	ピッカリングエマルション工学：多中空構造体の創出	第15回日本接着学会関西支部 若手の会	神戸大学統合研究 拠点コンベンション ホール 神戸市	2013年9月
485	中井啓太、遊佐真一、 藤井秀司、中村吉伸、 丸山厚、嶋田直彦	感温性ポリマーによる水滴のカプセル化 森原将史、	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
486	竹岡拓昭、濱崎博行、 藤井秀司、中村吉伸	有機無機同時析出シード分散重合法によるナノコンポジット被覆微粒子の創出	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
487	上野和之、浜崎青、 福井侑子、藤井秀司、 中村吉伸	リキッドマーブルを利用した水含有高分子カプセルの創製	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
488	山下幸造、藤井秀司、 中村吉伸	水系シード分散重合によるポリドーパミン被覆微粒子の合成	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
489	山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	熱重量分析によるシランカップリング剤処理層中の物理吸着分子についての考察	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
490	下嶋康平、高田恭平、 山村和広、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬、 藤原和子、日笠茂樹	アクリル系ブロックコポリマー/タッキファイヤ系の粘着特性	第59回高分子研究発表会	兵庫県民会館 神戸市	2013年7月
491	藤井秀司、横山雄一、 中村吉伸、遊佐真一、 伊東聖訓	ヤヌス粒子の界面吸着現象を利用したエマルションの安定化	文部科学省・科学研究費補助金・新学術領域研究「ソフトインターフェースの分子科学」第10回 公開シンポジウム	東京大学駒場キャンパス 東京都	2013年7月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
492	藤井秀司、濱崎博行、 中村吉伸	機能性ドーパントを利用する導電性高分子の構造・機能制御	文部科学省 科学研究費 新学術領域研究 元素ブロック 高分子材料の創出 第2回公開シンポジウム	東京工業大学 大岡 山キャンパス 東工 大蔵前会館 東京都	2013年7月
493	上野和之、浜崎青、福 井伶子、藤井秀司、中 村吉伸、Erica Wanless	水含有カプセル粒子の創出	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
494	江口洋介、藤井秀司、 中村吉伸	微粒子安定化エマルションをプラット フォームとする多中空構造体の創出	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
495	藤井秀司、原松栄次、 中村吉伸、森田裕史	2次元ソフト微粒子配列体の応力変形	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
496	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型アクリル系粘着剤の糸曳き形状に 影響する因子の検討	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
497	中村吉伸、福田知由、 藤井秀司	シリカ粒子充てんSBRの引張特性におよ ぼすメルカプト基含有シランカップリング 剤の添加方法の影響	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
498	中村吉伸、山村和広、 武南行記、下嶋康平、 藤井秀司、浦濱圭彬	ブローブタック試験による架橋型アクリル 系粘着剤の被着体への濡れ挙動の検討	第51回日本接着学会年次大会	明治大学駿河台 キャンパス 東京都	2013年6月
499	江口洋介、藤井秀司、 中村吉伸	ピッカリングエマルション集合体の作製： ナノメートルからミリメートルの階層構造	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月
500	竹岡拓昭、濱崎博行、 藤井秀司、中村吉伸	有機無機同時析出化学酸化シード重合 によるポリスチレン/ポリビロール-白金ナ ノコンポジット粒子の創出	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月
501	山下幸造、藤井秀司、 中村吉伸	水系分散重合によるポリドーパミンナノ微 粒子の合成	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月
502	藤井秀司、原松栄次、 中村吉伸、森田裕史	ソフト微粒子から形成される2次元配列体 の応力変形	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
503	山本祐輔、藤井秀司、 中村吉伸、日笠茂樹、 藤原和子	高分子-シリカナノコンポジット粒子の創 出および粘着特性に及ぼすシリカナノ粒 子の影響	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月
504	下嶋康平、藤井秀司、 中村吉伸、浦濱圭彬	架橋型粘着剤の糸曳き挙動:ポリマー構 造の影響	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月
505	山崎諒太、藤井秀司、 中村吉伸	熱重量分析によるシランカップリング剤の シリカ粒子への反応性の検討	第62回高分子学会年次大会	京都国際会館 京都市	2013年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<PD・特任研究員、RA等の研究成果一覧>

(雑誌論文)

スライマーン・アラールエルディーン

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
506	スライマーン・アラールエルディーン	標準アラビア語における基本構文の分類—動詞を含む文と無動詞文の違いについて—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	67-79	2015年3月
507	スライマーン・アラールエルディーン	ゼロ繋辞文における一致関係—標準アラビア語の[θ NP1+NP2]構文の場合—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	23-32	2014年3月

佐々木 淑美

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
508	佐々木淑美、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂内壁修復に伴う壁材および修復史の調査—北西エクセドラと北ティンバヌムを例に—	平成26年度東北芸術工科大学文化財保存修復研究センター紀要・事業報告 No.6	未定	2016/6/(予定)
*509	佐々木淑美、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志、	ハギア・ソフィア大聖堂のペンデンティブに残るモザイクおよび壁画に関する調査	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	137-148	2016年3月
510	水谷悦子、小椋大輔、石崎武志、安福勝、佐々木淑美	ハギア・ソフィア大聖堂の壁体の雨水の浸透が壁画の劣化に与える影響	日本建築学会環境系論文集、第80巻第716号	1001-1011	2015年3月

ヘシャーム・モハメド

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*511	ヘシャーム・モハメド	A Review of the Seismicity and Impact of Earthquakes on Life in Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	55-71	2016年3月

吹田 真里子

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*512	吹田真里子	ペンメルウ(Pn-mrw)の遺体に見る女性の位置づけ—葬祭神官の職をめぐって—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	33-39	2014年3月
513	廣池晋治、坂元仁、アフメド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、高島浩介、土戸哲明	気相系シャーレおよび彩色石片上でのn-アルカノールの抗カビ活性	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	135-145	2014年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

藤井 信之

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*514	藤井信之	A Prosopographical Study of the Inscription on the Sarcophagus of Pediese (Berlin29):An Aspect of the Political Structure of Egypt in the Fourth Century B.C.E.	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	49-65	2015年3月
515	藤井信之	陛下の第一の大將軍パディアセトについて—石棺 Berlin29の碑文からみた前4世紀のエジプト—	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	41-54	2014年3月

肥後 時尚

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*516	肥後時尚、青木彩香、松下亮介、安室喜弘、吹田浩	イドゥートのマスタバ「第3室西壁」における3次元計測データを用いた復元と再解釈	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	9-22	2016年3月
*517	安室喜弘、松下亮介、肥後時尚、吹田浩	イドゥートのマスタバ調査プロジェクトにおけるモバイルARシステムの提案	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	1-8	2016年3月
*518	肥後時尚	古代エジプト古王国時代のマトの一側面—ピラミッド・テキスト第260番から	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	215-228	2015年3月

(学会発表)

藤井 信之

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
519	藤井信之	松岡美術館所蔵の木製人型棺について:制作年代と被葬者の家系をめぐる問題を中心に	日本オリエント学会 第56回大会	上智大学	2014年10月
520	藤井信之	エジプト第26王朝期の將軍および提督たち:軍制の変化からみたサイス朝の支配体制	日本オリエント学会 第55回大会	京都外国語大学	2013年10月

吹田 真里子

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
521	吹田 浩、アフメド・シュエイブ、アーデル・アカリシュ、浜田正昭、西浦忠輝、吹田真里子	日本のフノリによる表打ち技術の海外壁画修復への応用(ポスター発表)	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウム in奈良	奈良春日野国際フォーラム 蕙 ~I・RA・KA~	2015年8月
522	廣池晋治、涌田恭兵、坂元仁、アフメド・シュエイブ、吹田真里子、吹田浩、久米田裕子、高島浩介、土戸哲明	寒天平板及び彩色石片上での黴の発育に対するn-Alkanolsの阻害効果 (Inhibitory Effect of n-alkanols on Fungal Growth on the Agar Plates and the Painted Stone Chips)	2013 東アジア文化遺産保存国際シンポジウム	韓国	2013年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

佐々木 淑美

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*523	佐々木淑美、石崎武志	トルコにおける飛来海塩粒子量の測定	2015東アジア文化遺産保存国際シンポジウムin奈良	奈良春日野国際フォーラム 萱～I・RA・KA～	2015年8月
*524	佐々木淑美、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂南側廊および南北ギャラリー一階モザイクの金テッセラに関する調査	文化財保存修復学会第37回大会(京都)	京都工芸繊維大学	2015年6月
*525	佐々木淑美、吉田直人、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志	トルコの歴史的建築物の内壁における塩類析出に関する調査	日本文化財科学会第32回大会(東京)	東京学芸大学	2015年7月
*526	佐々木淑美、吉田直人、小椋大輔、安福勝、水谷悦子、石崎武志	ハギア・ソフィア大聖堂の南北ティンパヌム壁画材料に関する調査	日本文化財科学会第32回大会(東京)	東京学芸大学	2015年7月
*527	水谷悦子、小椋大輔、石崎武志、安福勝、佐々木淑美	観光客からの熱水分発生がハギア・ソフィア大聖堂の壁画の劣化に与える影響の検討	日本文化財科学会第32回大会(東京)	東京学芸大学	2015年7月
*528	佐々木淑美	ハギア・ソフィア大聖堂南ギャラリー一階モザイクの保存状況ならびに材料・技法に関する調査	日本建築学会大会(関東)	東海大学	2015年9月
*529	水谷悦子、小椋大輔、石崎武志、安福勝、佐々木淑美	ハギア・ソフィア大聖堂の壁画保存に関する研究 その4 観光客からの熱水分発生が内壁表面における水分蒸発に及ぼす影響に関する検討	日本建築学会大会(関東)	東海大学	2015年9月

肥後 時尚

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
*530	肥後時尚	古代エジプトのマート研究 —葬祭文書に焦点を当てた文献研究の提示—	第41回古代エジプト研究会	中部大学	2015年11月
*531	肥後時尚	古代エジプトの「コフィン・テキスト」におけるマートの一側面	日本オリエント学会第57回大会	北海道大学	2015年10月
532	松下亮介、肥後時尚、吹田 浩、安室 喜弘	考古学プロジェクトにおける3DデジタルアーカイブのためのARインタフェース	第20回日本バーチャルリアリティ学会大会	東京	2015年9月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

(その他の研究成果)

藤井 信之

(講演)

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
533	藤井信之	古代エジプトへの招待	NHK文化センター梅田教室	大阪	2013年4月～ 毎月1回
534	藤井信之	エジプト王ラメセス2世:「帝国」再興への道程	京都ギリシア・ローマ美術館	京都	2015年4月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

「研究発表の状況」の学会欄で記述した論文、学会発表等以外の研究成果および企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

<その他の研究成果>

(講演・セミナー)

吹田 浩

	発表者名	発表課題名	主催	開催地	発表年月
535	吹田浩	文化財保存修復セミナー 「文化財保護における国際協力」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2014年3月

柏木 治

	発表者名	発表課題名	主催	開催地	発表年月
536	柏木治	スタンダードと「金」——外交官小説家の懐事情	日仏文化講座 Cercle Académique Français (CAF)	神戸国際会館	2014年6月
537	柏木治	文化財保存修復セミナー 「文化と文化遺産～エジプト遺産と文化イデオロギー」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 国際文化財・文化研究センター	2016年2月

伊藤 淳志

	発表者名	発表課題名	主催	開催地	発表年月
538	伊藤淳志	文化財保存修復セミナー 「地盤と文化財建築」 「基礎構造力学」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月 2015年2月
539	伊藤淳志	枠で拘束した地盤の鉛直支持力	兵庫県建築技術研究会	神戸	2014年10月
540	伊藤淳志	マチュピチュ遺跡の保存修復およびイースター島 モアイ遺跡の現状	日本建築学会近畿支部 基礎構造部会	大阪	2014年7月
541	伊藤淳志、西形達明	Machu Picchu における石積み構造物の変状調査	新潟国際情報大学・国土館大学	新潟	2014年3月

西形 達明

	発表者名	発表課題名	主催	開催地	発表年月
542	西形達明	文化財保存修復セミナー 「文化財構造物」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
543	伊藤淳志、西形達明	Machu Picchuにおける石積み構造物の変状調査	新潟国際情報大学・国土館大学	新潟	2014年3月

土戸 哲明

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
544	土戸 哲明	細菌学の基礎 I - 細菌の特徴、分類および検出方法など	日本臨床工学技士会(透析液安全管理責任者セミナー)	東京	2015年7月
545	土戸 哲明	殺菌・抗菌入門ワークショップ—わかりやすい微生物の取扱い・検査・制御法	テクノシステム	東京	2015年5月
546	土戸 哲明	安全なカビ検査・管理のための人材育成のしくみづくり	NPO法人カビ相談センター	東京	2015年2月
547	土戸 哲明	損傷菌のメカニズムと制御法	サイエンスフォーラム	東京	2014年12月
548	土戸 哲明	微生物制御の原理と殺菌・静菌技術の基礎知識	テクノシステム	東京	2014年9月
549	土戸 哲明	細菌学の基礎—細菌の特徴、分類および検出方法など。透析液安全管理責任者セミナー	公益社団法人 日本臨床工学技士会	東京	2014年7月
550	土戸 哲明	微生物制御の原理と殺菌・静菌技術の基礎知識	テクノシステム	東京	2013年10月
551	土戸 哲明	微生物熱死滅データベース[再増補版]とその活用	サイエンスフォーラム: 予測微生物学セミナー	東京	2013年4月

安室 喜弘

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
552	安室 喜弘	エジプト考古学における3次元測量計画とその利用について	日本情報考古学会 第34回大会	大阪	2015年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

西浦 忠輝

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
553	西浦 忠輝	タイ国・アユタヤ遺跡：大洪水における保存修復対策と今後の方策	文化遺産研究プロジェクト 報告会 in 楓門祭 国士舘大学	東京都 世田谷区	2015年11月
554	西浦 忠輝	天空の古代都市マチュピチュ遺跡	日本イコモスアカデミー ANAセールス(株)	東京都	2015年5月
555	西浦 忠輝	文化財保存修復セミナー 「人類の歴史と文化財」 「木材」・「石材・レンガ」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月 2015年2月 2014年3月
556	西浦 忠輝	太陽の神殿の保存修復	「マチュピチュ遺跡保存修復国際プロジェクト」シンポジウム 国士舘大学 新潟国際情報	新潟市	2014年3月

沢田 正昭

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
557	沢田 正昭	文化財保存修復セミナー 「文化財と自然科学」 「文化財保護における国際協力」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月 2015年2月 2014年3月

高鳥 浩介

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
558	高鳥浩介	空調システム診断士養成研修用テキスト	二日温空調システムクリーニング協会	東京	2014年4月
559	高鳥浩介	文化財保存修復セミナー 「文化財の生物劣化と対策」	関西大学 国際文化財・文化研究センター	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月 2015年2月 2014年3月
560	高鳥浩介	空調システム診断士養成研修用テキスト	二日温空調システムクリーニング協会	名古屋	2013年10月

中村 吉伸

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
561	中村吉伸	『なぜくつつくのか分かるように粘着強さを測定するには』 日本材料学会第85回高分子材料セミナー	日本材料学会	日本材料学会本部 京都市	2014年6月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
562	中村吉伸	『シランカップリング剤による表面界面制御はどこまでできるのか?』 異業種交流会「関西テクノサークル」講演会	関西テクノサークル	大阪キャッスルホテル	2014年1月
563	中村吉伸	『粘着剤の特性からみたテープはく離による密着性評価のポイントと限界』 電気鍍金研究会研究例会-技術者と経営者のためのめっき技術-	電気鍍金研究会	大阪府 電気鍍金会館	2013年9月
564	中村吉伸	『モルフォロジーで強い材料を作る -複合材料, 粘着剤, エジプト壁画保存接着剤-』 平成25年度TAネットワークス技術講習会	TAネットワークス	篠山市立四季の森 生涯学習センター	2013年6月

(研究報告)

柏木 治

	著者	記事名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
565	柏木 治	「産業家」と「考える階級」について(発表概要)	日本スタンダード研究会『スタンダード研究会会報』(24)	5-7	2014年5月

アーデル・イブラヒム・モハメド・アカリシュ

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
566	Adel I. M. Akarish	Ancient Egyptian Stone Quarries Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
567	Adel I. M. Akarish	Geology of Some Archaeological Site in Egypt Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
568	Adel I. M. Akarish	Upper Cretaceous Rocks in Sinai, Egypt, Introduced for Colleagues from Commonwealth Countries	Ministry of Foreigner Affair	NRC , Cairo	January,27- February 7, 2013
569	Adel I. M. Akarish	Stones Used in the Archalological Objects and Sites Introduced to SCA Inspectors	SCA , Ministry of Antiquities	Zamalk , Cairo	September , 21013

(翻訳)

サラハ・エル・ホーリ

	発表者名	発表標題名	主催	開催地	発表年月
570	Salah el-Kholy	Entdeckung von Verena, mit Kamm und Krug Revueing the Translation	a Book, from German to arabic	188	2014年5月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

(その他)

森 貴史

571	森 貴史	平成27年度科学研究費審査委員表彰受賞			2015年11月
-----	------	---------------------	--	--	----------

柏木 治

572	柏木治	「選評」(織田作之助青春賞)	『三田文学』第124号	三田文学会	2016年2月
573	柏木治	「確かなリアリティー」 (織田作之助青春賞・U-18賞選評)	毎日新聞朝刊(2016年1月10日)	毎日新聞大阪本社	2016年1月
574	柏木治	読書教養講座:「本と旅と人生論」 (ヤマザキマリ氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2015年10月
575	柏木治	読書教養講座: 「江戸も東京も雨が似合い、夜がいい〜文学が創った日本人の都市とところ」 (ロバート・キャンベル氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2014年12月
576	柏木 治	読書教養講座: 「この時代を生きる——文学の視点から」 (池澤夏樹氏との対談)	21世紀活字文化プロジェクト (読売新聞社)	関西大学	2013年9月

土戸 哲明

577	古田雅一、 <u>土戸哲明</u>	食品乳化剤の芽胞熱死滅促進作用機構の解析	三菱化学フーズ	受託研究	2015年4月～2016年3月
578	古田雅一、 <u>土戸哲明</u>	浴室の温水によるカビ死滅機構の解析	パナソニック エコシステムズ株式会社	共同研究	2015年6月～2016年3月
579	古田雅一、 <u>土戸哲明</u>	浴室の温水によるカビ死滅機構の解析	パナソニック エコシステムズ株式会社	共同研究	2014年6月～2015年3月
580	古田雅一、 <u>土戸哲明</u>	洗濯後の衣類部屋干し臭原因菌の制御	パナソニック アプライアンス株式会社	共同研究	2014年7月～2015年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

581	土戸 哲明	洗濯後の衣類部屋干し臭原因菌の特性解析	パナソニック アプライアンス株式会社	共同研究	2013年4月～2014 年3月
-----	-------	---------------------	-----------------------	------	---------------------

サラハ・エル・ホーリ

582	Tuna el Gebel	Directing and Carring out the Excavation of the Cairo University in Tuna el Gebel			October 2013 for one and half Month, then in April 2014 for three weeks.
583	Salah el-Kholy	Refreeing the Papers of Dr.Magda Abdallah for the Professor Degree			in June 2014

西浦 忠輝

584	西浦忠輝	ペルー共和国マチュピチュ遺跡建造物遺構の保存修復に関する調査研究	科学研究費助成事業 研究成果報告書		2015年6月
585	西浦忠輝	「奇跡の地球物語」 天空の城竹田城ー時空を超えた建築技術ー	テレビ朝日	全国放送	2013/10/6 18:30～17:00

高鳥 浩介

586	高鳥浩介、高橋淳子	保存料に対する植物病原性真菌プロファイル作成	公益財団法人日本食品化学研究振興財団平成25年度助成金、第20回研究成果報告書	印刷中	印刷中
587	高鳥浩介、高橋淳子	保存料に対する感受性真菌および抵抗性真菌プロファイル作成	公益財団法人日本食品化学研究振興財団平成24年度助成金、第19回研究成果報告書	116-121	2013年12月

仲 政明

588	仲 政明	兵庫県指定文化財曾根天満宮蔵「曾我蕭白筆牽牛図」復元模写制作	(財)元興寺文化財研究所連携		2014年9月
589	仲 政明	岡山県本性院蔵「涅槃図」復元模写	(株)坂田墨珠堂連携		2014年6月
590	仲 政明	エジプト・イドゥートマスタバ墓壁画部分復元模写制作			2014年1月
*591	仲 政明	「中国宋代絵画表現技法の萌芽的研究ー絵画表現と古代絹の相関関係ー」研究代表者	文部科学省科学研究費補助金 (挑戦的萌芽研究)		2012年4月～2014 年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

592	仲 政明	エジプト・イドゥートマスタバ墓壁画部分現状模写制作			2013年6月
*593	仲 政明	滋賀県大津市安養寺阿弥陀如来像復元模写制作	(株)坂田墨珠堂連携		2013年4月

サブリ・ファラグ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
594	サブリ・ファラグ	サッカラの遺跡群とそれらが抱える問題点	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*595	Sabry Farag	Present Situation and Problems for the Protection of Culutral Heritage in Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	215-222	2014年3月

ハーニー・アフマド

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*596	Hani Ahmmed	The Reality and Challenges of Preserving Egyptian Antiquities in Light of Changes that Occurred in Egypt after the Revolution of January 2011	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	201-214	2014年3月

<海外研究協力者の成果一覧>

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
597	モスタファ・アブデル・ファッターハ	セラベウム ー現実とクレームのはざまの修復作業ー	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*598	Mustafa Ahmed ABDELATAH and Mohamed Kamal KHALLAF	Effect of Clay Minerals on Mural Paintings of Ptahshepses Burial Chamber at Gisir El-Mudir, Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	31-44	2016年3月
*599	Mustafa Ahmed Abdelfatah, Muhammed Kamal and Shabban Mahmund	Ptahshepses Mural Painting and its Characterization at Gesr El-Mudir in Saqqara, Egypt	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	109-126	2015年3月
*600	Mustafa Abdel-fatah	Saqqara Administration for the Conservation and Restoration of Antiquities over 70 Years	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	223-232	2014年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

ナーセル・フェルガニ

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*601	Nasser Fergany	The Current Condition of the Saqqara Monuments	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	233-249	2014年3月

アシュラフ・ユーセフ・エワイス

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
602	アシュラフ・ユーセフ・エワイス	階段ピラミッドンの保存と修復に関する検討	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*603	Ashraf Youssef Ewais and Rémi LEGROS	Conservation and Restoration of an Off ering Table from the Excavation of the French Archaeological Mission in Saqqara (Autumn 2014)	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(3)	45-53	2016年3月
*604	Ashraf Youssef Ewais	Treatment and Conservation of the Statue of Nefer from the Czech Mission Excavations in Abusir Area	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	97-107	2015年3月
*605	Ashraf Youssef Ewais	Examples of Conservation and Restoration Work in Saqqara	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	251-264	2014年3月

モハメド・イブラヒム

	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*606	Mohamed Ibrahim	Crisis of Egyptian Momuments and the Future	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(1)	187-198	2014年3月

サルマン・アルマハリ

	発表者名	発表標題名	学会名	開催地	発表年月
607	サルマン・アルマハリ	バハレーンの考古遺産	関西大学 国際文化財・文化研究センター 国際シンポジウム	関西大学 千里山キャンパス	2016年2月
	著者名	論文名	掲載誌名 (巻・号)	頁	発表年月
*608	Ahmed Shoeib and Salman Almahari	Characterization of Old Mortars from Historic Buildings in Muharraq, Bahrain	The Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture(2)	89-96	2015年3月

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

<研究成果の公開状況>(上記以外)

シンポジウム・学会等の実施状況、インターネットでの公開状況等

ホームページで公開している場合には、URL を記載してください。

<既に実施しているもの>

◆2013 年度

- 研究会【別紙資料 P14】
エジプト文化財の危機と今後
日 程:2013 年 11 月 11 日(月)・11 月 14 日(木)
テーマ: サッカラ村の調査から
- 講演会【別紙資料 P13】
エジプト文化財の危機と今後
日 程:2013 年 11 月 19 日(火)・11 月 20 日(水)
テーマ: エジプト文化財の修復の実践—サッカラを中心に—
- 特別講演会【別紙資料 P11】
第 1 回特別講演会
日 程:2013 年 11 月 26 日(火)
テーマ: エジプト文化財の危機と今後
中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P18】
日 程:2013 年 12 月 7 日(土)・14 日(土)・21 日(土)・2014 年 1 月 11 日(土)
- 特別講演会【別紙資料 P12】
日 程:2013 年 1 月 25 日(土)
テーマ: 関西大学のエジプト調査 10 年の歩み
- 研究集会【別紙資料 P12-13】
日 程:2014 年 2 月 24 日(月)～2 月 26 日(水)
テーマ: エジプト学・文化財研究セミナー
- セミナー【別紙資料 P15】
文化財保存修復専門家養成実践セミナー
日 程:2014 年 3 月 5 日(水)～3 月 11 日(火)

◆2014 年度

- 研究会【別紙資料 P14】
日 程:2014 年 9 月 28 日(日)
テーマ: エジプト政権の動向と国際関係
- 特別講演会【別紙資料 P12】
日 程:2014 年 9 月 28 日(日)
テーマ: 現在のエジプトにおける政治的動向と市民の生活
- 中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P18】
日 程:2014 年 12 月 13 日(土)・20 日(土)・2015 年 1 月 10 日(土)・17 日(土)
- 研究会【別紙資料 P14】
日 程:2015 年 1 月 27 日(火)
テーマ: サッカラ、イドゥートの岩盤強化策
- 文化財保存修復専門家養成実践セミナー【別紙資料 P16】
日 程:2015 年 2 月 22 日(日)～3 月 1 日(日)
- 公開シンポジウム【別紙資料 P8】
日 程:2015 年 2 月 28 日(土)・3 月 1 日(日)
テーマ: 天空の古代都市「マチュピチュ遺跡」を譲れ
—保存修復研究国際プロジェクトの成果—
- 研究会【別紙資料 P14】
日 程:2015 年 3 月 2 日(月)
テーマ: マチュピチュ遺跡—日本とペルーにおける共同研究の今後—

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

- ・講演会【別紙資料 P13】
日 程:2015年3月18日(水)
テーマ:シリアの文化財とその現状 2015

◆2015年度

- ・国際シンポジウム【別紙資料 P9】
日 程:2015年8月27日(木)～8月29日(土)
テーマ:東アジア文化遺産保存国際シンポジウム
- ・国際シンポジウム【別紙資料 P10】
日 程:2015年9月14日(月)～9月16日(水)
テーマ:イスラムと国際社会
- ・特別講演会【別紙資料 P12】
日 程:2015年9月18日(金)
テーマ:エジプトにおける近年の考古学の発見
- ・講演会【別紙資料 P18】
日 程:2015年9月20日(日)
テーマ:古代エジプト文明の技術
- ・中期エジプト語講座 初級【別紙資料 P18】
日 程:2015年10月10日(土)・24日(土)・31日(土)・11月7日(土)
- ・中期エジプト語講座 中級【別紙資料 P18】
日 程:2015年12月12日(土)・19日(土)・2016年1月9日(土)
- ・エジプト学・文化財研究セミナー【別紙資料 P13】
日 程:2016年1月23日(土)～1月24日(日)
- ・文化財保存修復専門家養成実践セミナー(中級)【別紙資料 P17】
日 程:2016年2月22日(月)～2月26日(金)
- ・国際シンポジウム【別紙資料 P10-11】
日 程:2016年2月27日(土)・2月28日(日)
- ・ワークショップ【別紙資料 P18】
日 程:2016年2月29日(月)
- ・研究会【別紙資料 P14】
日 程:2016年3月24日(木)

◆インターネットでの公開状況

いずれも情報はホームページ(<http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>)にて公開している。
講演会等イベントについては、事前にポスターを掲載して告知し、各研究員の研究活動や著作の刊行、データベースの運用状況などの情報を随時掲載し、公開している。
また、フェイスブックで、研究拠点の情報を発信しており、上記のホームページよりも、エジプトの文化財にかかわる海外のニュースを含め、多様で身近な情報を多く発信するようにしている。
(<https://www.facebook.com/Egypt.Kansai.University>)

<これから実施する予定のもの>

- ◆ 2016年度4月以降
文化財保存修復セミナー→2016年度、2017年度
中期エジプト語講座→2016年度、2017年度
紀要 Journal of Center for the Global Study of Cultural Heritage and Culture
→2016年度、2017年度
ニュースレター→2016年度、2017年度
国際シンポジウム→2017年度
- ◆ インターネットでの公開予定 (<http://www.kansai-u.ac.jp/chc/>)
→シンポジウム等および刊行物の内容について、随時公開する

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

14 その他の研究成果等

「12 研究発表の状況」で記述した論文、学会発表等以外の研究成果及び企業との連携実績があれば具体的に記入してください。また、上記11(4)に記載した研究成果に対応するものには*を付してください。

※ 論文や学会発表等になじまない研究である場合は、本欄を充実させること

2016年3月に、サッカー遺跡より修復技術者8名、考古学者2名を関西大学のセンターで「科学的論文の書きかた」、及び、「博物館の地域活用方法」についての研修を11日にわたって実施した。エジプトが遺跡や文化財の修復について発信する情報は今日なお極めて限られている。公刊雑誌の数が少ないうえに、科学的論文の書き方の知識に不十分な面があり、豊富な修復経験や発掘経験がある一方で、国際的な舞台では事実上報告を行っていない。センターのサッカーでの調査活動に関連して、すでに複数の修復技術者がセンターの紀要に公刊しており、その経緯からエジプト人実務者の論文公刊能力の向上を図ったものである。

また、エジプトでは中央博物館の整備は一応強化しているが、博物館の地域社会との連携した活用法は考えられていない。地域社会と切り離された博物館は、地域社会に利益をもたらさないばかりでなく、日本や欧米との文化的橋渡しもできず、エジプト社会の理解を促進していない。今後、エジプトの治安が安定したときを念頭に置き、地域社会への還元、エジプトとその他世界の相互理解を促進するプログラムを提供した。エジプトの考古省は、2016年4月から外国隊に対してエジプト人職員への研修を義務付けるようになった。センターのプログラムは、現場レベルの実務的な内容をこえて、エジプト人実務者の国際的レベルへの進出を狙ったものであり、近く、彼らの論文が投稿されることが期待されるなど、現地からも高く評価されている。

15 「選定時」に付された留意事項とそれへの対応

<「選定時」に付された留意事項>

留意事項が付されていない場合は「該当なし」と記載してください。

特定の教員に負担、受益が偏るのには、注意が必要である。

<「選定時」に付された留意事項への対応>

付された留意事項に対し、どのような対応策を講じ、また、それにより、どのような成果があがったか等について、詳細に記載してください。

各グループにグループ長がおかれており、グループ内を調整するとともに、運営委員会にてセンター全体の運営を調整するようにしている。これによって、負担と受益に偏りが出ないようにしている。エジプト学・エジプト社会グループは吹田、文化財修復グループはシュエイブ、科学技術グループは伊藤、国際文化グループは森がグループ長となっており、グループ内の役割分担と、グループ間の研究の調整を行っている。

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

16 施設・装置・設備・研究費の支出状況(実績概要)

(千円)

年度・区分	支出額	内 訳						備 考
		法 人 負 担	私 学 助 成	共同研 究機関 負担	受託 研究等	寄付金	その他(科研費)	
平成 25 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	5,680	2,840	2,840				
	研究費	91,706	29,696	20,188		27,472	2,000	12,350 (株)山田技術士事務所、 (株)ショウワ、(株)安藤・間他
平成 26 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	55,114	26,627	19,426		2,191	1,800	5,070 ロングロエンジニアリング(株) ヒロセ(株)、荒川化学工業(株)他
平成 27 年度	施 設	0						
	装 置	0						
	設 備	0						
	研究費	80,456	32,118	25,044		2,624		20,670 ヒロセ(株)、(株)ニイタカ 日本合成化学工業(株)他
総 額	施 設	0	0	0	0	0	0	0
	装 置	0	0	0	0	0	0	0
	設 備	5,680	2,840	2,840	0	0	0	0
	研究費	227,276	88,441	64,658	0	32,287	3,800	38,090
総 計	232,956	91,281	67,498	0	32,287	3,800	38,090	

※平成27年度は予定額。

17 施設・装置・設備の整備状況 (私学助成を受けたものはすべて記載してください。)

《施 設》(私学助成を受けていないものも含め、使用している施設をすべて記載してください。)

(千円)

施 設 の 名 称	整備年度	研究施設面積	研究室等数	使用者数	事業経費	補助金額	補助主体
総合研究室棟2階	H25年度	160㎡	3室	29			法人負担

※ 私学助成による補助事業として行った新增築により、整備前と比較して増加した面積

㎡

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

《装置・設備》(私学助成を受けていないものは、主なもののみを記載してください。)

(千円)

装置・設備の名称	整備年度	型番	台数	稼働時間数	事業経費	補助金額	補助主体
(研究装置)				h			
				h			
				h			
				h			
(研究設備)				h			
デジタルマイクロスコープ式	H25年度	コントローラー本体部 (VHX-2000SP1554)他	1	680	5,680	2,840	私学助成
				h			
				h			
(情報処理関係設備)				h			
				h			
				h			
				h			
				h			
				h			

18 研究費の支出状況

(千円)

年度	平成	25	年度	積算内訳	
小科目	支出額	主な使途	金額	主な内容	
教育研究経費支出					
消耗品費	14,444	消耗品費等	14,444	消耗品(4,855)、ソフトウェア(168)、消耗図書資料(3,417)、消耗器具備品(6,004)	
通信運搬費	96	郵券代等	96	郵券代(89)、支払運搬費(7)	
印刷製本費	1,785	印刷費	1,785	印刷費(1,755) 製本費(30)	
旅費交通費	9,983	一般出張旅費等	9,983	一般出張旅費(4,349)、交通費(5,634)	
賃貸料	252	賃借料	252	賃借料(252)	
報酬・委託料	7,393	報酬等	7,393	報酬(4,335)、その他の業務委託費(3,058)	
(雑費)	6,432	その他雑費	6,432	その他の雑費(6,432)	
(その他)	19	会議・会合費等	19	会議・会合費(19)	
計	40,404		40,404		
アルバイト関係支出					
人件費支出 (兼務職員)	3,082		3,082	特任研究員(2,274)月給379,000円×6ヶ月 実人数1人 アルバイト(808) 時給900円、年間時間数898時間 実人数1人	
教育研究経費支出	0		0		
計	3,082		3,082		
設備関係支出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)					
教育研究用機器備品	6,658	器具備品	6,658	器具備品費(6,658)	
図書	0				
計	6,658		6,658		
収入内訳(反対給付がある場合)					
(他の補助活動)	260		260	平成25年度文化財保存修復セミナーに伴う受講料	
計	260		260		
研究スタッフ関係支出					
リサーチ・アシスタント	0		0		
ポスト・ドクター	0		0		
研究支援推進経費	0		0		
計	0		0		

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

年 度	平成 26 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	16,243	消耗品費等	16,243
通信運搬費	194	郵券代等	194
印刷製本費	3,715	印刷費	3,715
旅費交通費	7,263	一般出張旅費等	7,263
賃貸料	176	賃借料	176
報酬・委託料	9,853	報酬等	9,853
(雑費)	2,824	その他雑費	2,824
(その他)	261	会議・会合費等	261
計	40,529		40,529
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	4,548		4,548
教育研究経費支出	0		0
計	4,548		4,548
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	1,276	器具備品	1,276
図 書	0		0
計	1,276		1,276
収入内訳(反対給付がある場合)			
(他の補助活動)	300		300
計	300		300
研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出			
リサーチ・アシスタント	0		0
ポスト・ドクター	0		0
研究支援推進経費	0		0
計	0		0

年 度	平成 27 年度		
小 科 目	支 出 額	積 算 内 訳	
		主 な 使 途	金 額
教 育 研 究 経 費 支 出			
消耗品費	8,013	消耗品費等	8,013
通信運搬費	425	郵券代等	425
印刷製本費	2,539	印刷費	2,539
旅費交通費	15,540	一般出張旅費等	15,540
賃貸料	193	賃借料	193
報酬・委託料	11,772	報酬等	11,772
(雑費)	9,310	その他雑費	9,310
(その他)	549	会議・会合費等	549
計	48,341		48,341
ア ル バ イ ト 関 係 支 出			
人件費支出 (兼務職員)	0		0
教育研究経費支出	0		0
計	0		0
設 備 関 係 支 出(1個又は1組の価格が500万円未満のもの)			
教育研究用機器備品	0		0
図 書	0		0
計	0		0
収入内訳(反対給付がある場合)			
(他の補助活動)	275		275
計	275		275

(様式1)

法人番号	271014
プロジェクト番号	S1311041

研 究 ス タ ッ フ 関 係 支 出				
リサーチ・アシスタント	0		0	
ポスト・ドクター	9,096		9,096	PD(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数1人 特任研究員(4,548) 月給379,000円×12ヶ月 実人数2人
研究支援推進経費	0		0	
計	9,096		9,096	